



複式指導資料第 39 集（令和 7 年度）

# いわての複式指導 実践事例集

岩手県教育委員会

## はじめに

本県は、約26%の小学校が複式学級を有しており、小規模・複式指導の充実を図ることは、岩手県教育振興計画の基本目標「学びと絆で夢と未来を拓き社会を創造する人づくり」を推進するためにも、欠かすことのできない視点のひとつとなっています。

ここ数年の状況を見ますと、県内の各地域において新たに複式学級を編成する学校があり、複式指導を初めて担当する教員への支援が求められています。

本県には、長年にわたり培われてきた複式指導に関する知識や技術が蓄積されており、各学校の特性を生かした指導計画の改善・充実並びに学習過程の指導の工夫が進められています。また、ICTを最大限に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善も図られているところです。

本実践事例集は、それらの優れた実践を広く共有することにより、本県の複式指導の充実を図ることを目的として、県内各地の実践の参考にしたポイントをまとめております。

複式指導を担当される先生方にとって、より適切で的確な各教科等の指導の展開を支援する資料として活用されることを期待しております。

岩手県教育委員会事務局学校教育室

## 《 目 次 》

実践事例1	【算数5・6年】葛巻町立小屋瀬小学校・葛巻町立五日市小学校	1
実践事例2	【国語5・6年】遠野市立鱒沢小学校	8
実践事例3	【算数2・3年】一関市立興田小学校	14
実践事例4	【算数4・5年】陸前高田市立横田小学校	19
実践事例5	【算数1・2年】宮古市立川井小学校	25
実践事例6	【算数5・6年】久慈市立平山小学校	30
実践事例7	【国語3・4年】岩手大学教育学部附属小学校	36
実践事例8	【音楽5・6年】岩手大学教育学部附属小学校	40

# 算数 5・6年

葛巻町立小屋瀬小学校・五日市小学校 令和7年10月31日(金)

第5学年 「面積の求め方を考えよう」  
(東京書籍「新しい算数5下」P42～62)

第6学年 「比例の関係をくわしく調べよう」  
(東京書籍「新しい算数6」P150～175)

## 本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載

### 〇学びを広げるための遠隔交流授業の実施

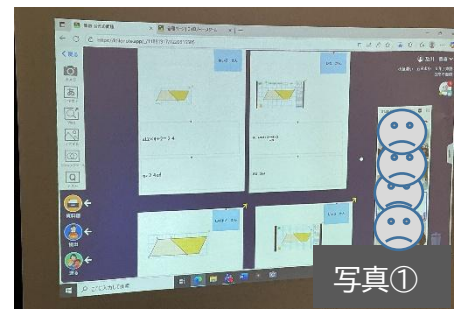


本時は、5年生は既習の図形の面積の求め方を基に台形の面積の求め方を考える時間、6年生は比例の考えを活用して日常場面における問題解決に取り組む時間です。

両校はどちらも複式学級を有する極小規模校であり、同じ学年の複数の友達の考えに触れ、思考を広げたり深めたりする機会を保障するために、遠隔交流授業に取り組みました。

本時の展開場面については、オンラインテレビ会議システムを活用した遠隔交流授業により両校の同学年での学習が進みます。この時間の学習活動においては、一つの学年に一人の先生が直接指導することができ、同時に各学年の直接指導を展開できることが最大のメリットです。

5年生は、小屋瀬小学校の先生の直接指導のもと、ロイロノートの共有ノート上に図や式を使って台形の面積の求め方を表現・共有したり、教科書の友達の考えを類推したりしながら、図形の面積の求め方についての学びを広げる様子が見られました。【写真①】



複式学級の人数構成によっては、一人学年など、児童の学習が限定的になってしまうこともあります。オンラインテレビ会議システムや思考共有ツール等、ICTを活用することで、時間や空間を越えて同じ学年の友達との交流の機会を生むことができます。

小規模校であるからこそ、同じ学年の他者の考えに触れる機会を設定し、児童の学びを広げたり深めたりする経験を保障していくことも検討していきたいものです。

### 〇学習状況を把握するための振り返りの設定



本時の展開場面の中心が遠隔交流授業であったことから、各校の先生は展開場面ではそれぞれ1つの(片方の)学年の児童の様子を捉えていました。両校では学習評価者の基本は各学級担任であるという考えから、終末場面は各学校の学習活動に戻し、各学級の児童の学習状況を把握するように計画・実施していました。

小屋瀬小学校での終末場面では、5年生は学習活動を振り返り、学習感想をロイロノートに記述・共有する活動、6年生は本時の学習を踏まえ比例の考えを活用する適用問題に取り組みました。

5年生の学習感想では、「今まで学習した形に変えれば台形の面積も計算を使って求められる」という学習内容に関することと、「他の小学校の友達と考えを交流することができて良かった」という遠隔交流授業で得られた良さについての記述が見られました。【写真②】



複式指導においても、学習評価については各学校長の責任の下、児童の資質・能力の伸びを評価していくことが基本となりますので、学習評価者は授業者の教員となります。

複式学級での学習指導においては、少人数であるメリットを生かし、単元で身に付けたい資質・能力の具体的な姿に対して、本時の学習活動を通してどのような児童の変容があったのかを適切に把握し、児童の学習評価や指導者側の授業改善に生かすことが大切です。

# 第5・6学年 算数科学習指導案

日 時 令和7年10月31日（金）5校時

場 所 5・6年教室

児 童 小屋瀬小5年1名 6年5名 計 6名

五日市小5年3名 6年7名 計10名

指導者 及川 竜真

	第5学年	第6学年
1 単元名	「面積の求め方を考えよう」 (東京書籍5年下 p. 42～62)	「比例の関係をくわしく調べよう」 (東京書籍6年 p. 150～175)
2 単元の指導構想	(1) 単元について	
	<p>本単元では、平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積について、図形の構成要素に着目し、既習の面積の求め方に帰着して考え、新しい公式をつくり出し、それらを用いて計算で求めることができる力及び図や式などの数学的表現を用いて面積の求め方を粘り強く考え、公式まで高めようとする態度などを育てる。</p>	<p>本単元では、伴って変わる2つの数量を見いだして、比例・反比例の関係に着目し、「変化のきまり」や「対応のきまり」を考察し、関数的に考える力を伸ばすことをねらいとしている。問題解決の場面では、比例の関係に着目するよさに気づき、今後の学習や日常生活に生かそうとする態度を育てる。</p>
	(2) 児童について	
	<h2 style="margin: 0;">児童観は省略</h2>	
	(3) 指導にあたって	
<p>本単元では、平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積について自分の考えを友達に説明したり、自分の考えとの共通点や相違点を意識して、聞いたりすることで、自分の考えを深めることができるようにする。また、五日市小学校の5年生と遠隔交流学習を行うことによって、伝え合いの場面を増やし、協働的な学びの充実を目指す。</p>	<p>本単元では、比例・反比例の関係に着目し、「変化のきまり」や「対応のきまり」を考察し、関数的に考える力を伸ばすことをねらいとしている。交流場面では、表を見て式を説明したり、式から表の見方を説明したりすることを通して、多様な考えに共通しているものに注目させることで協働的な学びのよさを実感させたい。</p>	
(4) 遠隔交流学習について		
<p>本単元での遠隔交流学習の目的は、他者との意見、考えの交流を通して、協働的な学びの充実を図ることである。遠隔交流学習により単学年で学習指導を進める場面があるが、各学校の児童の学習評価については学級担任が行うこととする。また、試行錯誤を繰り返しながら遠隔交流学習（葛巻モデル）の実現を目指すとともに、よりよい指導方法や環境の構築を目指していく。</p>		

3 単元の指導計画	(1) 単元の目標	
	<p>(1) 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を理解し、公式を用いて面積を求めることができる。 「知識及び技能」</p> <p>(2) 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの構成要素や性質に着目し、既習の面積の求め方を基にして、図や式を用いて面積の求め方を考え、表現することができる。 「思考力、判断力、表現力等」</p> <p>(3) 平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積を、図や式などの数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。 「学びに向かう力、人間性等」</p>	<p>(1) 比例や反比例の意味や性質、表やグラフの特徴について理解し、比例や反比例の関係にある2つの数量の関係を表す表や式、グラフに表したり、比例の関係をj用いて問題を解決したりすることができる。 「知識及び技能」</p> <p>(2) 伴って変わる2つの数量を見いだして、それらの関係に着目し、目的に応じて表や式、グラフを用いてそれらの関係を表現して変化や対応の特徴を見いだし問題解決に活用することができる。 「思考力、判断力、表現力等」</p> <p>(3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的にとらえ検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。 「学びに向かう力、人間性等」</p>
	(2) 評価規準	
	知識・技能	
<p>①必要な部分の長さを用いることで、三角形、平行四辺形、ひし形、台形的面積は計算によって求めることができることを理解している。</p> <p>②三角形、平行四辺形、ひし形、台形的面積を、公式を用いて求めることができる。</p>	<p>①比例の意味として、二つの数量A、Bがあり、一方の数量が2倍、3倍、4倍、…と変化するのに伴って、他方の数量も2倍、3倍、4倍、…と変化し、一方が<math>\frac{1}{2}</math>、<math>\frac{1}{3}</math>、<math>\frac{1}{4}</math>、…と変化するのに伴って、他方も、<math>\frac{1}{2}</math>、<math>\frac{1}{3}</math>、<math>\frac{1}{4}</math>、…と変化することを理解している。</p> <p>②二つの数量の対応している値の商に着目すると、それがどこも一定になっていることを理解している。</p> <p>③比例の関係を表す式が、<math>y = (\text{決まった数}) \times x</math>という形で表されることや、グラフが原点を通る直線として表されることを理解している。</p> <p>④比例の関係を利用することで手際よく問題を解決できる場合があることや、比例の関係をj用いて問題を解決していく方法を知っている。</p> <p>⑤反比例の意味として、比例の場合に対応して、二つの数量A、Bがあり、一方の数量が2倍、3倍、4倍、…と変化するのに伴って、他方の数量は<math>\frac{1}{2}</math>、<math>\frac{1}{3}</math>、<math>\frac{1}{4}</math>、…と変化し、一方が<math>\frac{1}{2}</math>、<math>\frac{1}{3}</math>、<math>\frac{1}{4}</math>、…と変化するのに伴って、他方は2倍、3倍、4倍、…と変化することを知っている。</p> <p>⑥二つの数量の対応している値の積に着目すると、それがどこも一定になっているということを知っている。</p> <p>⑦反比例の関係を表す式が、<math>x \times y = (\text{決まった数})</math>という形で表されることや、グラフについて、比例のグラフとの違いを知っている。</p>	

思考・判断・表現			
<p>①三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方を基に考えている。</p> <p>②見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現を見いだしている。</p>		<p>①伴って変わる二つの数量について、比例の関係にある数量を見いだしている。</p> <p>②比例の関係を用いて問題を解決する際に、目的に応じて、式、表、グラフなどの適切な表現を選択して、変化や対応の特徴を見いだしている。</p> <p>③日常生活や算数の学習などの比例が活用できる場面において、比例の関係を生かして問題を解決している。</p> <p>④比例を用いた問題解決の方法や結果を評価し、必要に応じて、目的により適したものに改善している。</p>	
主体的に学習に取り組む態度			
<p>①求積可能な図形に帰着させて考えると面積を求めることができるというよさに気づき、三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積を求めようとしている。</p> <p>②見いだした求積方法や式表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高めようとしている。</p>		<p>①生活や学習に、比例が活用できる場面を見付け、能率のよい処理の仕方を求め、積極的に比例の関係を生かしていこうとしている。</p> <p>②目的に応じて適切な表現を用いるなど、式、表、グラフの表現のよさに気付いている。</p> <p>③問題解決の方法や結果を評価し、必要に応じて、目的により適したものに改善していこうとしている。</p>	
(3) 単元の指導と評価の計画			
時	○ねらい ※評価規準 (評価方法)	※網掛けは、評価したことを記録に残す場面	
1	○平行四辺形の面積の求め方を考え、説明することができる。 (発言、ノート) 【思-①】 【態-①】	1	○比例の関係に着目し、小数倍、分数倍のときも、倍の関係が成り立つことを理解する。 (発言、ノート) 【知-①】 【態-①】
2	○平行四辺形の面積の公式をつくり出し、それを適用して面積を求めることができる。 (ノート、行動) 【知-②】 【思-②】 【態-②】	2	○2つの数量の変わり方の割合に着目し、比例の関係について考える。 (発言、ノート) 【知-②】 【思-①】
3	○高さが平行四辺形の外にある場合でも平行四辺形の面積の公式を適用できることを理解する。 どんな平行四辺形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。 (発言、行動) 【知-①】 【思-①】 【態-②】	3	○比例の関係のときに成り立つきまりに着目し、比例の式や「決まった数」の多様な意味について考えることができる。 (発言、ノート) 【知-③】 【態-①】
4	○三角形の面積の求め方を考え、説明することができる。 (発言、ノート) 【思-①】 【態-②】	4 ・ 5	○比例関係にある2つの数量の値に着目し、比例のグラフの特徴を理解する。 (発言、ノート) 【知-③】 【態-②】
5	○三角形の面積を求める公式をつくり出し、それを適用して面積を求めることができる。(ノート、行動) 【知-②】 【思-②】 【態-②】	6 ・ 7	○比例のグラフを考察することを通して、比例のグラフについて理解を深める。 (発言、ノート) 【思-②】 【態-③】
6	○高さが三角形の外にある場合でも、三角形の面積の公式を適用できることを理解する。 どんな三角形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積は等しくなることを理解する。 (ノート、行動) 【知-①】 【思-①】 【態-②】	8 <b>本時</b>	○比例の関係を活用した問題解決の方法を考え、表や式を用いて解くことができる。 (発言、ノート) 【知-③】
		・ 9	○比例の関係を活用した問題解決の方法を考え、表や式を用いて説明することができる。 (発言、ノート) 【思-③】

7 (本時)	○台形の面積の求め方を考え、説明することができる。(ノート、行動)【思—①】	10	○学習内容を適用して、問題を解決する。 (発言、ノート)【知—④】
8	○台形の面積を求める公式をつくり出し、それを適用して面積を求めることができる。 (ノート、行動)【知—②】【思—②】【態—②】	11	○2つの数量の関係に着目し、反比例の性質について理解する。 (発言、ノート)【知—⑤】
9	○ひし形の面積の求め方を考え、説明することができる。 ひし形の面積を求める公式をつくり出し、それを適用して面積を求めることができる。 (ノート、行動)【知—①②】【思—①②】 【態—②】	12	○反比例する2つの数量の関係に着目し、反比例の性質について理解する。 【知—⑥】
10	○学習内容の定着を確認する。(評価テスト) (ペーパーテスト)【知—①②】	13	○反比例のときに成り立つきまりに着目し、反比例の式や関係について理解する。 【態—③】
		14	○反比例の関係にある2つの数量の値に着目し、反比例のグラフの特徴について理解する。 【知—⑦】
		15	○学習内容を適用して問題を解決する。
		16	○学習内容の定着を確認する。(評価テスト) (ペーパーテスト)【知—①】【思—④】

#### 4 本時の指導

##### (1) 目標と評価規準

5年生		6年生	
目標	台形の性質に着目して、台形の面積の求め方を、平行四辺形や三角形の求積方法に帰着して考え、図や式で説明することができる。 【思・判・表】	目標	日常の問題の解決に比例の関係を見いだして、それらの関係に着目し、表や式に表し、解くことができる。 【知・技】
評価規準	おおむね満足	評価規準	おおむね満足
	平行四辺形の求積方法に帰着して考え、台形の面積を求め、説明することができる。		比例の関係を活用し、表や式を用いて解くことができる。
評価規準	努力を要する児童への支援	評価規準	努力を要する児童への支援
	ロイロノートの共有ノートを使用することで、いつでも友達の考えを見ることができるようにする。また、友達の考えを参考にして解いてよいことを伝える。		既習の「単位量当たりの大きさ」と同じ考え方になることを確認し、一枚当たりの重さに着目することを伝える。

##### (2) 本時で目指す子供の姿

5年生	6年生
自分と友達の考えの共通点・相違点を見付け、考えを広げることができる子供	自分と友達の考えの共通点・相違点を見つけながら、自分の考えを再構築し、表現することができる子供

(3) 展開  直接指導  間接指導  遠隔交流場面

5 年生		6 年生		
指導上の留意点 ◆研究に関わる手だて	学習活動・子供の考え	形態	学習活動・子供の考え	指導上の留意点 ◆研究に関わる手だて
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師との対話を中心に問題場面を十分に捉えられるようにする。</li> <li>・これまでの解決を振り返り、求積可能な図形に直すことに気付かせる。</li> <li>・共有ノートを使い、相互参照することで</li> <li>・多様な考えがあることを伝える。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>台形の面積の求め方を、求積可能な図形の面積の求め方に着目して、図や式で説明することができる。 (発言・ノート) 【思一①】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自分と友達の考えの共通点・相違点を見つけ、考えのよさを説明できるようにする。 <u>仮説(2)ウ</u></li> <li>・課題に対する振り返りをロイロノートに打ち込ませることで、友達の振り返りを読むことができるようにする。</li> </ul>	<p>1 問題を把握する。(3分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>台形の面積の求め方を考え、公式をつくりましょう。</p> </div> <p>2 課題を立てる。(3分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>台形の面積の求め方を考えよう。</p> </div> <p>3 見通しをもつ。(4分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・習った形に直せば面積を求められそう。</li> </ul> <p>4 自力解決をする。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形と長方形に分けて面積を求める。</li> <li>・高さを半分にすることで長方形に直す。</li> </ul> <p>5 考えを説明し、確かめる。(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・台形を足して、平行四辺形と見る。</li> </ul> <p>6 本時のまとめをする。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>台形でも平行四辺形など面積を求められる図形に直して考えれば面積を求められる。</p> </div> <p>7 学習を振り返る。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習をしてみの振り返り</li> <li>・交流学习をしてみの振り返り</li> </ul>	<div style="background-color: #cccccc; width: 100%; height: 100%;"></div>	<p>1 問題を把握する。(3分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>画用紙300枚を、全部数えないで用意する方法を考えましょう。</p> </div> <p>2 課題をとらえる。(3分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>画用紙の重さから、300枚の画用紙を用意する方法を考えよう。</p> </div> <p>3 見通しをもつ。(4分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1枚の重さは軽すぎではかれない。</li> <li>・10枚の重さを量ってみると求められそう。</li> </ul> <p>4 自力解決をする。(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重さは枚数に比例すると考えて、1枚の重さを求める。</li> </ul> $92 \times \frac{1}{10} = 9.2$ $9.2 \times 300 = 2760$ <p>5 考えを説明し、検討する。(15分)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <math>10 \times \square = 92</math>  <math>\square = 92 \div 10 = 9.2</math>  <math>300 \times 9.2 = 2760</math></li> </ul> $300 \div 10 = 30$ $92 \times 30 = 2760$ <p>6 本時のまとめをする。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>比例の関係を使うと、画用紙を全部数えなくても、およその枚数を用意することができる。</p> </div> <p>7 適用問題に取り組む。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>今まで集めた牛乳キャップの重さは1500gあります。この牛乳キャップは全部で何個ありますか。牛乳キャップ20個の重さは、30gです。個数と重さにどんな関係があるか入れながら、全体の個数の求め方を書きましょう。</p> </div> <p>8 学習を振り返る。(5分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習リーダーを中心に学習を進める。</li> <li>・問題場面を具体的に想像させるために、実際に画用紙を用意する。</li> <li>・共有ノートに自分の考えを書かせる。</li> <li>・自力解決でつまづいている際には、「単位量当たりの大きさ」と同じ考え方になることを確認し、一枚当たりの重さに着目することを伝える。</li> <li>・友達の考えを説明させ、どちらの考えにも共通点があることに気付かせる。</li> <li>◆自分と友達の考えの共通点・相違点を見つけ、考えのよさを説明できるようにする。 <u>仮説(2)ウ</u></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>日常の問題の解決に比例の関係を見いだして、それらの関係に着目し、表や式を用いて解くことができる。 (ノート、発言)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対する振り返りをロイロノートに打ち込ませることで、友達の振り返りを読むことができるようにする。</li> </ul>

(4) 板書計画

5年生

(黒板)

<p>台形の面積の求め方を考え、 公式をつくりましょう。</p>	<p>台形の面積の求め方を考えよう。</p>	<p>台形でも平行四辺形など面積 を求められる図形に直して考え れば面積を求められる。</p>
<p>① 見直しをもつ。 ・習った形になおす</p>	<p>③交流</p>	<p>振り返り</p>
<p>② 自分の考えをかく。 ・ロイロノート ・自分のノート</p>	<p>図</p>	
	<p>図</p>	
	<p>もとの台形と同じ</p>	
	<p>図</p>	
	<p>もとの台形の2倍</p>	

6年生

(黒板)

<p>比例の関係をくわしく調べよう</p> <p>画用紙 300 枚を、全部数えない で用意する方法を考えましょう。</p>	<p>画用紙の重さから、300 枚の画 用紙を用意する方法を考えよう。</p>	<p>比例の関係をを使うと、画用紙 を全部数えなくても、およその 枚数を用意することができる。</p>
<p>① 画用紙の枚数が変わると、それに ともなって変わる数量は何ですか。</p>	<p>②この画用紙10枚の重さをはかったら92gあ りました。このことをもとにして、300枚を用 意する方法を考え、自分の考えを表や式をつかっ てかきましょう。</p>	<p>練習問題 今まで集めた牛乳キャップの重 さは1500gあります。この牛乳 キャップは全部で何個ありますか。 牛乳キャップ20個の重さは、30 gです。 個数と重さにどんな関係がある か入れながら、全体の個数の求め方 を書きましょう。</p>
	<p>表</p>	<p>式 答え</p>

## 国語 5・6年

遠野市立鱒沢小学校 令和7年10月10日(金)

第5学年 物語の全体像をとらえ、  
考えたことを伝え合おう  
「たずねびと」(光村図書 5年 P113)

第6学年 作品の世界を想像しながら読み、  
考えたことを伝え合おう  
「やまなし」(光村図書 6年 P111)

### 本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



#### ○異学年との交流による言語活動の充実

本実践は、どちらの学年も「読むこと」の文学的な文章における学習内容です。本時は、自分が選んだ1冊について、その本を選んだ理由や心に残った場面、言葉、自分が考えたことなどを伝え合う学習活動でした。伝え合う活動に入る前に、聞く側の視点(①目的に沿って選んでいるか ②選んだ理由が明確か ③相手の考えに心を動かされたか)を示しました。このことにより、話し手と聞き手の双方の視点が明確となり、話し手へのアドバイスが、より具体的になりました。この授業では、伝える相手を複数回変え、同学年だけではなく異学年とも交流する活動が設定されていました。6年生から、「もっと作者の考えを入れることで、この本を選んだ理由が伝わるよ。」とアドバイスを受けた5年生の児童は、アドバイスをもとに自分が書いた文章を見直していました。【写真①】



写真①



学年の人数が少ない複式指導においては、集団解決の場面で思考が深まりにくい場合があります。本実践のように、多くの考えに触れる機会を意図的に設け、かかわらせる人や対象を増やす工夫を行うことで、より学習のねらいにせまることができます。異学年との交流を図りやすい複式学級のメリットを生かした実践と言えます。



#### ○両学年の主体的な学びを促す共通導入、共通終末の工夫

本校では、「児童の主体性を育む複式指導」を研究主題に掲げ、研究の重点の一つとして「間接指導時の工夫」に取り組んでいます。間接指導時に、児童が自ら学習を進めたり、友達と意見を交流したりしながら学びの自走ができるよう、直接指導の充実を図っており、特に両学年の主体的な学びを促す同時直接指導を重視して研究を推進しています。

本時は、共通導入において互いの学習のゴールを確認し、学びのねらいを両学年で共有しました。【写真②】このことにより、間接指導において児童自身が一方の学年のゴールも意識しながら主体的に取り組む姿が見られ、学びの自走につながっていました。また、共通終末では、学習を振り返ってまとめを共有することで、学習のゴールを踏まえた互いの学びの成果を明らかにしていました。【写真③】



写真②



写真③



本実践のように、単元によっては、両学年の学習内容を関連付けて指導した方が理解が深められる場合があります。このような場合には、児童自らが関連する内容に気付くことができるよう、共通導入や共通終末等、共通思考の場を設定することが効果的です。



<b>2 単元で取り上げる「課題解決的な言語活動」</b>		(何を通して育成するのか)
これまでに学習してきた戦争にまつわる物語文（3年「ちいちゃんのかげおくり」、4年「一つの花」、5年「たずねびと」）の中から、自分が後世に伝えたい1冊を選び、考えたことを伝え合う。	作者の信念や生き方と重ねながら、宮沢賢治の作品の中でそれを伝えるための1冊を選び、作品世界について考えたことを伝え合う。	
<b>3 単元の評価規準</b>		(何が身に付いたか)
5 学年		6 学年
〔知識・技能〕	①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。(C(1)ク)	
〔思考・判断・表現〕	①「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(C(1)エ)	
〔主体的に学習に取り組む態度〕	①粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。	①粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き、伝え合おうとしている。
<b>4 「2つの視点」+αによる授業改善</b>		(どのように学ぶか)
視点1	<b>【主体的な学び】</b> ①単元のゴールの姿を具体的にイメージしたり、本時でどのような学習を行うのかを理解し意識して学習を進めたりすることができるように、単元の1時間目に、教科書の「学習 見通しをもとう」のページをノートに貼り、都度確認しながら学習を進めていくよう指示したり、教師が作成したゴールの成果物を示したりする。	
視点2	<b>【言語活動の充実】</b> ①より相手を意識して伝え合うことができるように、同じ学年だけでなく、他学年とも伝え合ったりアドバイスをしあったりする時間を設定する。また、どのようなことをアドバイスしたらよいか、その観点の具体を提示する。 ②より端的に、分かりやすく、自分の考えをまとめることができるように、アドバイスタイムを設け、アドバイスをもとに、自分の書いた文章をもう一度推敲する時間を設ける。 ③自分の選んだおすすめの本についてまとめる際に、印象に残った場面や言葉、その本を選んだ理由をロイロノートにまとめられるよう、あらかじめ教師の作ったカードを配付する。	
本校の+α	<b>【間接指導時の工夫】</b> ①教師の指示がその都度なくても、児童同士で学習を進められるように、導入段階で、単元の学びにおける現在地や本時の学習内容を確認する。 ②学年は違っても目指すゴールは同じであることを確認し、お互いの学習に対する意識づけを図るために、共通導入や共通終了を行い、互いの学年の学びを見通したり振り返ったりする時間を設ける。	

5 【5学年】単元の指導と評価の計画（全10時間）		（単元をどうデザインするか）	
時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「単元扉を読み、大めあてを確認する。</li> <li>○題名と作者を確かめ、どのような物語か想像したことを話し合う。</li> <li>○範読を聞き、初発の感想を書く。</li> <li>・「学習 見通しをもとう」のページを開き、単元の目標やゴールの姿をイメージする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初発の感想を書く際に、「心に残ったこと（場面）は何か（どこか）」「なぜ心に残ったのか（理由）」を問い、それについて感想を書くよう指示する。</li> </ul>	
2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語の設定を確かめ、場面分けを確認する。</li> <li>○それぞれの場面で、「綾」が出会ったものや、登場人物を確かめる。</li> <li>○行動や会話、心情や情景を表す表現に着目して、「綾」の心情の変化を捉える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「頭がくらくらしてきた」「うちのめされるような気持ち」「気が遠くなりそう」などの心情を表現する言葉に着目するよう指示する。</li> <li>・「綾」の心情の変化を、場面の移り変わりとともに捉えることができるように、表や心情曲線を板書する。</li> </ul>	<p>【知・技①】 比喩が用いられている叙述に着目しながら、「綾」が出会ったものや「綾」の心情について表にまとめることができているかの確認。〔ノートへの記述〕</p> <p>【思・判・表①】 「綾」の心情の変化をもとに、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしているかの確認。〔ノートへの記述〕</p>
5 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○物語全体でどのようなことが描かれているのかを想像する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰り返し出てくるものが、どのように表現されているかに着目するよう指示する。</li> </ul>	
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「たずねびと」を読んで変化した自分の思いや考えをノートにまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えの根拠や理由となる叙述を引用したり指摘したりしながらまとめるよう指示する。</li> </ul>	<p>【思・判・表①】 自分の選んだ1冊について、物語の全体像を把握した上で、選んだ理由や心に残った場面・言葉などをまとめたり伝え合ったりしているかの確認。〔ロイロノート〕</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでに学習してきた戦争にまつわる物語文の中から、自分が後世に伝えたい1冊を選び、自分の考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ちいちゃんのかげおくり」「一つの花」の教材文や絵本を用意し、読み比べることができるように環境を整える。</li> <li>・教師が作成したロイロノートの型を示し、ゴールの姿を共有した後で、ロイロノートのカードを配付する。</li> </ul>	<p>【学習に取り組む態度①】 粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしているかの確認。〔観察〕</p>
9 （本時）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が選んだ1冊について、同学年や他学年の友達と伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「同じ物語を選んだ同士」、「違う物語を選んだ同士」、「他学年の友達」と、伝える相手を複数回変えながら意見を聞き合い、自分の考えを推敲していくよう指示する。</li> </ul>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元全体を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を読む価値を自覚し、今後の読書活動につながられるように、単元を通して身に付けることができた力を振り返るよう指示する。</li> </ul>	

5 【6学年】単元の指導と評価の計画（全10時間）		（単元をどうデザインするか）	
時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元扉を読み、大めあてを確認する。</li> <li>○題名と作者を確かめ、どのような物語か想像したことを話し合う。</li> <li>○範読を聞き、初発の感想を書く。</li> <li>○「学習 見通しをもとう」のページを開き、単元の目標やゴールの姿をイメージする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初発の感想を書く際に、「心に残ったこと（場面）は何か（どこか）」「なぜ心に残ったのか（理由）」を問い、それについて感想を書くよう指示する。</li> </ul>	
2 3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「五月」「十二月」の二つの場面で、どのような風景が映し出されているのか、それが分かることを本文の叙述から見つけ、簡単な絵や図に表す。</li> <li>○「五月」と「十二月」の場面を比べ、感じたことや考えたことをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「五月」の風景を描くグループと、「十二月」の風景を描くグループに振り分け、グループ内で協働しながら叙述を見付けたり絵に表したりするよう指示する。</li> <li>・それぞれの場面の様子や出来事を視覚的に捉えることができるように、出来上がった作品をグループごとに発表する場を設ける。</li> <li>・「五月」と「十二月」の場面对比しながら読むことができるように、それぞれの場面から特徴的な表現を見付け、その印象（イメージ、想像したこと）を書くよう指示する。</li> <li>・「かにの様子」「水や光の様子」「上から来たもの」について、二つの場面对比しながらどのように表現されているかを、思考ツールにまとめるよう指示する。</li> <li>・選んだ表現やそこから想像したこと、感じたこと、考えたことなどを伝え合う場を設ける。</li> </ul>	<p>【知・技①】 比喩や反復などを用いた表現から、5月と12月の風景を具体的に想像しているかの確認。〔画用紙〕</p> <p>【思・判・表①】 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりした上で、作者が題名を「やまなし」にした理由をまとめているかの確認。〔ノートへの記述〕</p>
5 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方について話し合う。</li> <li>○なぜ宮沢賢治は、「やまなし」という題名にしたのか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮沢賢治の生き方や考え方を捉えられるように、宮沢賢治の言葉や行動を、表や思考ツールに整理するよう指示する。</li> </ul>	<p>【思・判・表①】 自分の選んだ1冊について、物語の全体像を把握した上で、選んだ理由や心に残った場面・言葉などをまとめたり伝え合ったりしているかの確認。〔ロイロノート〕</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○作者がこの作品にこめた思いについて、考えたことを文章にまとめる。</li> </ul>		<p>【学習に取り組む態度①】 粘り強く物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりし、学習の見通しをもって作品世界について考えたことを書き、伝え合おうとしているかの確認。〔観察〕</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○宮沢賢治の作品の中から、宮沢賢治の生き方や考え方を反映していると思う1冊を選び、自分の考えをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宮沢賢治の作品の絵本などを用意し、読み比べることができるように環境を整える。</li> <li>・教師が作成したロイロノートの型を示し、ゴールの姿を共有した後で、ロイロノートのカードを配付する。</li> </ul>	
9 （本時）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分が選んだ1冊について、同学年や他学年の友達と伝え合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「同じ物語を選んだ同士」、「違う物語を選んだ同士」、「他学年の友達」と、伝える相手を複数回変えながら意見を聞き合い、自分の考えを推敲していくよう指示する。</li> </ul>	
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○単元全体を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語を読む価値を自覚し、今後の読書活動につながられるように、単元を通して身に付けることができた力を振り返るよう指示する。</li> </ul>	

6 本時の展開 (本時をどうデザインするか)						
第5学年 (9/10)			第6学年 (9/10)			
指導上の留意点	学習内容	段階	形態	段階	学習内容	指導上の留意点
【視点1】① 単元の大めあてを提示し、学習を積み重ねてきたことを確認する。	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。	導入 7分	共通 導入	導入 7分	1 前時の学習を想起する。 2 学習課題を確認する。	【視点1】① 単元の大めあてを提示し、学習を積み重ねてきたことを確認する。
「わたしが選んだこの1冊」をプレゼンし合おう。						
・同学年だけでなく異学年とも交流を行うことを伝える。	3 学習の見通しをもつ。		視点+α ②		3 学習の見通しをもつ。	・同学年だけでなく異学年とも交流を行うことを伝える。
【視点2】①② 前時までに作成したロイロノートをお互いに見せ合いながら交流するよう指示する。	4 同学年の友達と選んだ1冊についてプレゼンし合う。	展  開  30分		展  開  30分	4 同学年の友達と選んだ1冊についてプレゼンし合う。	【視点2】①② 前時までに作成したロイロノートをお互いに見せ合いながら交流するよう指示する。
【思・判・表①】 自分の選んだ1冊について、物語の全体像を把握した上で、選んだ理由や心に残った場面・言葉などをまとめたり伝え合ったりしているかの確認。〔ロイロノート〕	5 異学年の友達と選んだ1冊についてプレゼンし合う。				5 異学年の友達と選んだ1冊についてプレゼンし合う。	
	6 書いたものをもう一度推敲する。				6 書いたものをもう一度推敲する。	
・友達のプレゼンを聞いて、感心したこと、マネしたいこと、心を動かされたことについて振り返るよう指示する。	7 振り返りをする。	終末 8分	共通 終末 視点+α ②	終末 8分	7 振り返りをする。	・友達のプレゼンを聞いて、感心したこと、マネしたいこと、心を動かされたことについて振り返るよう指示する。

7 板書計画等 (学びの可視化をどうデザインするか)	
<p>振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達のプレゼンを聞いて</li> <li>↓ 感心したこと</li> <li>マネしたいこと</li> <li>心を動かされたことなど</li> </ul>	<p>キミに決めた！</p> <p>わたしが選んだこの一冊</p> <p>「私が選んだこの一冊」を プレゼンし合おう。</p> <p>⑤ これまで学習してきた戦 争にまつわる物語</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちいちゃんのかげおくり</li> <li>・ 一つの花</li> <li>・ たずねびと</li> </ul> <p>⑥ 宮沢賢治の作品</p> <p>プレゼンのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ なぜ、これを選んだのか</li> <li>↓ 理由</li> <li>心に残った場面</li> <li>心に残った言葉</li> <li>○ 反応を示す</li> </ul> <p>+</p> <p>ワンポイントアドバイス</p> <p>ツツコミ</p>

算数  
2・3年

第2学年 たし算とひき算  
(東京書籍「新しい算数2下」P76)

第3学年 □を使った式  
(東京書籍「新しい算数3下」P62)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



○学年における直接指導の軽重をつけた工夫

本時では、右表のような指導過程を計画し、実践を行いました。わたりの回数を減らし、2年生は思考力、判断力、表現力等を育むために直接指導の充実、3年生は前時までの学習を生かした自分たちで進める間接指導の充実を図った指導ができるよう手立てを講じました。

2年生	指導形態(わたり)		3年生
導入	直接指導	間接指導	導入
展開	間接指導	直接指導	展開
終末 発展	直接指導	間接指導	終末 習熟

2年生は、事象を図に表し、図から立式することにつなげました。直接指導に重きをおくことで、事象→図→式という具体から抽象化していく段階を丁寧に指導することができました。また、2年生の直接指導を重点的に行うことにより、教科書巻末にある「部分」が3つになる事象の同構造の問題に発展的に取り組ませ、児童の思考を深めることができました。



3年生は、自分たちで学び進められるようワークシートを用いて間接指導の充実を図りました。児童は、友達と対話をしながら事象を言葉の式に表し、未知数を□としてお話どおりの式に表しました。さらに、式と図を関連付けて考え、未知数である□の求め方を考えることができました。対話を通じた具体と抽象の往還により理解を深めることができました。後半に直接指導の場面を設定することで、児童は、本時の学びを教師と確認した後、自分に合った問題を選択し、意欲的に習熟を図っていました。



○ICT活用の充実

児童が自分たちで学びを進める場面でICTを効果的に活用していました。

2年生では、大型提示装置を用いてデジタル教科書の発展問題を提示し、児童全員で画面に書き込んだり、「全体」や「部分」という言葉を用いて対話したりしながら問題解決をしていました。少人数の学級であるメリットを生かし、数学的表現の充実に資する活用が図られました。



3年生では、直接指導の後、タブレットを用いて、問題を自分で選択して習熟を図っていました。児童が必要に応じて繰り返し問題を解いたり、教師が問題の取組状況を把握したりすることができ、知識及び技能の定着に資する活用が図られていました。



複式指導において、単元におけるつまづきを想定し、既習を生かして児童が自分たちで進められる学習場面と、教師や友達との対話を通して思考力、判断力、表現力等を育成する学習場面を意図的に組み合わせ、各学年の直接指導に軽重をつけることで、直接指導と間接指導の充実につなげることができます。そこで大切になるのが単元計画です。児童の実態、学年間の教材の関連、直接指導における時間のマネジメント等の視点から計画の作成が必要になります。また、学び方を確認したり、ICTを効果的に活用したりすることによって、間接指導の充実を図ることも必要です。教材を関連させることで学年を超えた中核的な概念の理解につなげたり、間接指導の充実を図ることで自立的な学習の育成につなげたりするなど、複式での学びのよさを生かした指導を大切にしていきたいです。

## 第2・3学年 算数科学習指導案

日時 令和7年9月18日(木) 2校時  
児童 第2学年 7名 第3学年 6名  
指導者 及川 岳太

### 【2年】

#### 1 単元名

「たし算とひき算」(東京書籍2年下)

#### 2 単元について

##### (1) 教材について

児童は、第1学年において1位数と1位数との加法及びその逆の減法について、数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えることを学習してきている。また、第2学年においては、加法及び減法に関して成り立つ性質について理解し、その性質を活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりすることを学習してきている。

これを受け、本単元では、加法と減法との相互関係について理解し、問題を解決する力を育成することをねらいとして学習する。また、数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえて問題解決の仕方を考える力や考えようとする態度を育成する。

本単元で育成される資質・能力は、第3学年の3位数や4位数の加法及び減法などの考察に生かされる。

##### (2) 指導について

本単元では、逆思考の問題解決を通して、加法と減法との相互関係について理解できるようにする。これは、加法と減法との関係を統合的な見方でもとらえることでもある。指導に当たっては、数量の関係を図に表し、「全体」と2つの「部分」から成り立っている構造について理解できるようにしていく。そのうえで、どこを求めたいかによって演算が変わることについて理解を深められるように指導していく。

### 【3年】

#### 1 単元名

「□を使った式」(東京書籍3年下)

#### 2 単元について

##### (1) 教材について

児童は、これまで第1学年の加法から始まり、減法、乗法及び除法の場面において、問題場面を式に表したり、式を読み取ったりすることを段階的に学習してきている。また、式は数量や数量の関係を簡潔、明瞭、的確に表すことができる数学的表現であることを学習してきている。

これを受け、本単元では、逆思考になるような問題の解決において、未知の数量を□として式に表したり、□に当てはまる数の求め方を図に表したりして考察する。また、加法と減法、乗法と除法の相互関係についても、式と図を関連付けて説明し、とらえられるようにすることをねらいとして学習する。

本単元で育成される資質・能力は、第4学年の数量の関係を四則混合の式や、( )や□、△を用いた式で、簡潔に、又は一般的に表す考察に生かされる。

##### (2) 指導について

本単元では、問題を解決するために、未知の数量を□などの記号を用いて表現することにより、問題場面どおりに数量の関係を立式し、□に当てはまる数を調べることができるように指導する。その際、言葉の式や線分図などと関連付けながら式は事象を簡潔に表したり、数量の関係を表したりするものであることをとらえられるように指導していく。また、加法と減法との相互関係、乗法と除法の相互関係についても理解を深められるようにしていく。

### 【第2学年及び第3学年共通】

第2学年及び第3学年の指導において、単元を通して数量の関係に着目してとらえるという共通した数学的な見方・考え方を大切にしたい指導を行っていく。

R6年度全国学力・学習状況調査の問題[1(2)]において、数量の関係を式に表すことができるかを問う問題が出題されている。式は事柄や関係を表すものであることをとらえられていない児童、未知数を□で表すことで、場面のおおりに数量の関係を表せるよさをとらえられていない児童にとっては解答が困難なものとなる。

そこで、本単元においては、言葉の式、図、式を関連付けながら数量の関係をとらえられるよう丁寧に指導していく。第2学年と第3学年の学習内容を類似単元で構成し、2つの学年の学習内容を数学的な見方・考え方で横断的につなぎ指導の充実を図っていく。

学習過程を振り返り、2つの学年で共通して事柄や関係を表す式の働きの理解とよさを実感できるよう指導していく。

### R6年度全国学力・学習状況調査問題[1(2)]

(2) たくみさんは、はじめに折り紙を何枚か持っていました。  
ゆうまさんから38枚もらって、全部で62枚になりました。  
このことを、たくみさんがはじめに持っていた折り紙の枚数を□枚として式に表します。  
下のアからエまでの中から、正しい式を1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア  $62 + 38 = \square$
- イ  $\square + 38 = 62$
- ウ  $\square - 62 = 38$
- エ  $\square - 38 = 62$

### 3 単元計画（5時間）

#### (1) 単元の目標

- ・加法と減法との相互関係について理解できる。  
【知識及び技能】
- ・数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえることができる。  
【思考力、判断力、表現力等】
- ・加法と減法の相互関係に関心をもち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。  
【学びに向かう力、人間性等】

#### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①加法と減法は互いに逆の関係になっているなど、加法と減法の相互関係について理解している。	①加法と減法の相互関係について、図をもとに考え、式で表現している。	①加法と減法の相互関係を考察するのに用いる図のよさに気づいている。

### 3 単元計画（4時間）

#### (1) 単元の目標

- ・数量の関係を表す式について理解するとともに、数量を□などを用いて表し、その関係を式に表したり、□などに数を当てはめて調べたりすることができる。  
【知識及び技能】
- ・数量の関係に着目し、数量の関係を図や式を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすることができる。  
【思考力、判断力、表現力等】
- ・数量の関係を式や図を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて読み取ったりすることに進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。  
【学びに向かう力、人間性等】

#### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①未知の数量を□などを用いて表すことにより、数量の関係を式で表せることを理解している。 ②未知の数量を□などを用いて表し、その関係を式に表している。 ③未知の数量を□などを用いて表した式について、□に数を当てはめて調べている。	①数量の関係に着目し、数量の関係を図や□などを用いた式に、簡潔に表している。 ②□などを用いて表した式そのものが、一つの数量を表していることに気づき、式と図を関連付けて、式が表している場面の意味を読み取っている。	①数量の関係を図に表したことを振り返り、□などを用いた式を表すよさに気づき、□などを用いた式を問題解決に活用している。

### 4 指導と評価の計画（全5時間 本時 3/5）

時間	目標	評価規準（評価方法）		
		知・技	思・判・表	態 度
1	加法逆の減法（未知数が後に出てくる）の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。	・① (ノート分析)		・① (行動観察・ノート分析)
2	加法逆の加法の問題解決を通して、加法と減法の相互関係についての理解を深める。	・① (ノート分析)		
3 本時	加法逆の減法（未知数が先に出てくる）の問題解決を通して、加法と減法の相互関係について考え、説明することができる。		・① (行動観察・ノート分析)	
4	減法逆の減法の問題づくりを通して、場面をテープ図や式に表現する。		○① (行動観察・ノート分析)	○① (行動観察・ノート分析)
5	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	○① (テスト)	○① (テスト)	

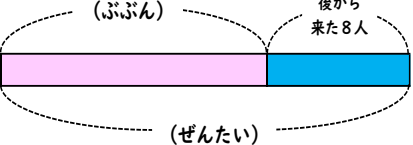
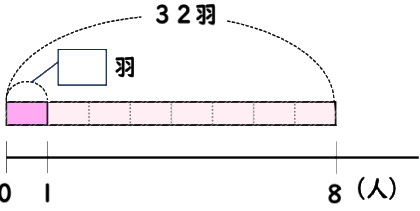
【○記録に残す評価 ・指導に生かす評価】

### 4 指導と評価の計画（全4時間 本時 3/4）

時間	目標	評価規準（評価方法）		
		知・技	思・判・表	態 度
1	未知の数量があっても□を用いると文脈の通りに式に表すことができる。	・① (ノート分析)	・① (行動観察・ノート分析)	
2	数量の関係を式や図を用いて簡潔に表し、未知の数量を表す□を用いた式について説明することができる。	・② (行動観察)	○② (行動観察・ノート分析)	○① (行動観察・ノート分析)
3 本時	数量の関係を未知の数量を表す□を用いて式に表したり、未知の数量を求めたりすることができる。	・③ (ノート分析)		
4	学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値付ける。	○①②③ (テスト)	○①② (テスト)	

【○記録に残す評価 ・指導に生かす評価】

5 本時の展開

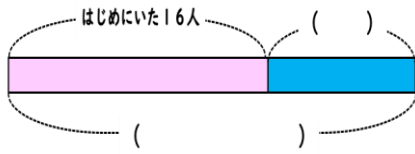
2年生 (・留意点 ◆評価)		3年生 (・留意点 ◆評価)		
指導上の留意点	学習活動	形態	指導上の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文の大切なところに、下線を引かせる。</li> <li>方法の見通しをもたせ、既習事項を活用することを確認する。</li> <li>全体と部分に着目して図を表す。</li> <li>未知数は□で表すことをおさえる。</li> <li>部分を求めるためには、全体から部分を引けばよいことをとらえさせる。</li> </ul>	<p><b>1 問題を把握する</b></p> <p>教室に何人かいます。後から8人来たのでみんなで23人になりました。 はじめに何人いましたか。</p> <p><b>2 学習課題を把握する</b></p> <p>図を使って、たし算かひき算か考えよう。</p> <p><b>3 見通しをもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>図に表す。</li> <li>「ぜんたい」と「ぶぶん」をとらえる。</li> </ul> <p><b>4 解決を図る</b></p> <p>○場面を図に表す</p>  <p>○図をもとに数量の関係を式に表す</p> $\square + 8 = 23$ <p>ぶぶん    ぶぶん    ぜんたい</p> <p>○□ (未知数) の「ぶぶん」を求める</p> $23 - 8 = 15$ <p>ぜんたい    ぶぶん    ぶぶん</p> <p>○数量の関係を式に表す過程を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ぜんたい」と「ぶぶん」で数量の関係をとらえる。</li> <li>図に表すことで、場面を式に表しやすくなることをとらえる。</li> <li>数量の関係をとらえ、□ (未知数) を求める。</li> </ul>	<p>直接指導 間接指導</p>	<p><b>1 問題を把握する</b></p> <p>同じ数ずつ、8人でつるをおいたら、つるは全部で32羽になりました。</p> <p><b>2 学習課題を把握する</b></p> <p>場面を式に表そう。</p> <p><b>3 見通しをもつ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>わからない数を□として、言葉の式に表す。</li> <li>図に表す。</li> </ul> <p><b>4 解決を図る</b></p> <p>○場面を言葉の式に表す</p> $1 \text{ 人がおった数} \times \text{人数} = \text{全部の数}$ <p>○場面を図に表す</p>  <p>○図をもとに数量の関係を□を用いた式に表す</p> $\square \times 8 = 32$ <p>1人がおった数    人数    全部の数</p> <p>○自己の考えを伝え合い、協働的に解決する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の式をもとに、未知数を□として数量の関係を式に表して考える。</li> <li>図と数量の関係を表す式を関連させて未知数を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文の大切なところに、下線を引かせる。</li> <li>方法の見通しをもたせ、かけ算の式で表せることをとらえさせる。</li> <li>既習事項と関連させ、言葉の式と図のイメージをもたせる。</li> <li>1人がおった数が未知数であることをとらえさせる。</li> <li>場面を図に表すことで未知数や数量の関係をとらえさせる。</li> <li>式と図を関連付けて考えさせる。</li> <li>式が事柄を表すものであることをとらえさせる。</li> </ul>

・同構造の加法逆の減法（未知数が後ろにある）の部分を求める問題に取り組みさせる。

### 5 適用を図る

図書室に16人います。後から、何人か来たので、みんなで25人になりました。後から来た人は何人ですか。

○場面を図に表す



○図をもとに数量の関係を式に表す

$$16 + \square = 25$$

ぶぶん    ぶぶん    ぜんたい

○□（未知数）の「ぶぶん」を求める

$$25 - 16 = 9$$

ぜんたい    ぶぶん    ぶぶん

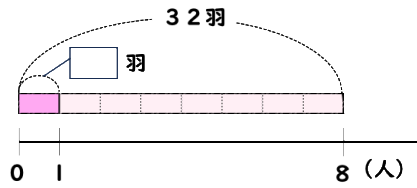
○自己の考えを伝え合い、協働的に解決する

・2問を通して、部分は全体から引くことで求められることをとらえさせる。

間  
接  
指  
導

○図と式を相互に関連付けて、未知数の求め方を考える

・図をもとに未知数を求める。



・□に数をあてはめて考える。

$$\begin{array}{l} \boxed{2} \times 8 = 16 \\ \boxed{3} \times 8 = 24 \\ \boxed{4} \times 8 = 32 \end{array}$$

### 5 本時の学習をまとめる

かけ算の場面でも、□を使うとお話のとおり式に表すことができる。

・図に表したり、□に数をあてはめたりして、未知数を求める。

・部分が3つになる同構造の問題に取り組みさせることで、部分を求めるときは、全体から部分を引くことを統合的にとらえさせる。

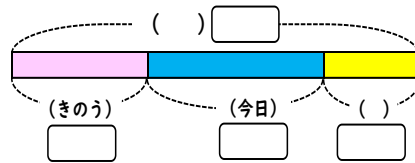
### 6 本時の学習をまとめる

ぜんたいとぶぶんにちゆう目して図を見ると、たし算かひき算かわかる。

### 7 発展的に考える

なおきさんは、ぜんぶで60ページの本をきのう何ページか読みました。今日26ページ読んだので、のこりは14ページになりました。きのうは何ページ読みましたか。

○場面を図に表す



○図をもとに数量の関係を式に表す

$$\square + 26 + 14 = 60$$

ぶぶん    ぶぶん    ぶぶん    ぜんたい

○□（未知数）の「ぶぶん」を求める

$$60 - 26 - 14 = 20$$

ぜんたい    ぶぶん    ぶぶん    ぶぶん

### 8 振り返る

・本時の学びを振り返る。

◆加法と減法の相互関係について、図をもとに考え、式で表現している。【思①】（行動観察、ノート分）

間  
接  
指  
導

### 6 適用を図る

クッキーが何まいかあります。8人で同じ数ずつ分けたら、1人分は3枚になりました。わからない数を□として、わり算の式に表し、□にあてはまる数をもとめましょう。

○場面を言葉の式に表す

$$\boxed{\text{全部の数}} \div \boxed{\text{人数}} = \boxed{\text{1人分のまい数}}$$

○□を使った式に表す

$$\boxed{\square} \div 8 = 3$$

全部の数    人数    1人分のまい数

○「全部の数」を求める

$$3 \times 8 = 24$$

1人分のまい数    人数    全部の数

### 7 振り返る

・本時の学びを振り返る。

・除法の問題についても未知数を□に表すことで場面のお話のとおり式に表せることをとらえさせる。

・□を用いて式に表すことによるよさを実感させる。

◆未知の数量を□などを用いて表した式について、□に数を当てはめて調べることができる。

【知③】  
(ノート分析)

場面を図に表したり式に表したりして考えるとよい。

# 算数 4・5年

陸前高田市立横田小学校 令和7年9月4日(木)

第4学年  
「わり算の筆算を考えよう」  
(東京書籍「新しい算数4上」P106)

第5学年  
「整数の性質を調べよう」  
(東京書籍「新しい算数5上」P100)

## 本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



### ○上学年と下学年で指導の軽重をつけた導入と「ずらし」

4年生は2けたでわるわり算の習熟の場面、5年生は4と6の公倍数を5つ見つける方法を考える場面でした。4年生は「知・技」、5年生は「思・判・表」の評価場面として単元計画を構想しました。4年生の導入は、既習の筆算技能の定着を図る練習問題による間接指導、5年生の導入は、公倍数を複数見つける課題意識を高めるために直接指導で行いました。

教材の内容や評価に応じて「ずらし」を設定することで、4年生は「これまでの筆算のやり方で解けそうだ」と進んで問題に取り組む姿が見られました。また、5年生は教師とのやりとりをもとに、「公倍数を一気に5つ見つけることは難しそうだから、まずは、2つみんなで見つけてみよう」とスモールステップで解決の糸口を見つけることができました。子どもに考えさせたい部分を直接指導の場面に当てることで、子どもたちがスムーズに学習に向かうことができました。



### ○話し合いの視点を明確にしたリーダー指導

間接指導の際、子どもたちは教師の直接的な支援なしに個別、あるいはグループで学習することになります。5年生は、「どのような方法で公倍数を見つけたか」という方法について、考えの交流をしていました。子どもたちからは、4と6の倍数をそれぞれ書き出し、公倍数に印を付けていく方法が出されましたが、学習リーダーを中心に、方法を比較する中で、最小公倍数である12を累加していけばいい、という方法を新たに見つけ出すことができました。「方法について話し合わせる」という視点は、授業者が前もって想定しておき、事前にリーダー指導を行っていたものです。話し合いの視点を明確にすることで、目的意識をもった対話となり、より主体的に学ぶことができます。



子どもたちは、問題の正誤に目が向きがちですが、「方法」について話し合わせるのか、「理由や根拠」について話し合わせるのかを明確にしておくことが必要です。これは、複式指導のみでなく、単式指導においても重要な視点になります。



### ○「同じようにできる」を積み重ねる指導

授業の終末は、4年生は商に0がたつ筆算、5年生は数値を変えて公倍数を求める適用問題に取り組みました。どちらの学年も、「これまでと同じようにできる」と、問題解決の過程を振り返りながら進めていました。1問のみで完結するのではなく、複数問に取り組むことで、学習内容の理解がより確かなものとなります。



日時 令和7年9月4日(木) 5校時

児童 4年生7名 5年生5名

場所 4・5年教室

指導者 秋吉 幸江

		第4学年	第5学年
1	単元名	わり算の筆算を考えよう	整数の性質を調べよう
	単元を通して身につけたい力	除数や被除数、商、余りに着目して問題解決にあたることで、除法計算の知識及び技能を身につけるとともに、計算に成り立つ性質を見出したり、その性質を活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりする能力を伸ばす。	整数の性質について理解し、整数を偶数と奇数に類別したり、約数や倍数などの数の構成について考えたりする力を育てる。すなわち、乗法や除法に着目し、観点を決めて整数を類別する方法を考えたり、数の構成について考えたりする力及び態度を育てる。
	働かせる数学的な見方・考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>数の見方を適切な商をたてるときの見方として十分に習熟活用すること</li> <li>束の考え方についてもわり算の性質が使われていることを振り返り、働かせた見方・考え方を価値づけること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>除法に着目し、「偶数は、2でわりきれぬ整数」「奇数は、2でわりきれぬ整数」と分けること</li> <li>乗法に着目すると、「偶数は<math>2 \times \square</math>」「奇数は<math>2 \times \square + 1</math>」と表現することができること。</li> <li>乗法及び除法に着目し、ある数の倍数や約数の全体を1つの集合体としてとらえること</li> </ul>
2	単元について	<p>1学期の第3単元「わり算の筆算(1)」では、2～3位数を1位数でわる計算において、筆算形式を学習してきた。「たてる」「かける」「ひく」「おろす」の4操作を繰り返して計算を進めていく。4操作の手順を形式的に覚えていることも大切だが、そこに意味の理解が伴っていることが特に大切である。部分積が何を表しているかについても十分に理解させておくことで、「ひいた」結果の数と除数の大きさに着目し、商の修正が必要な意味を理解することにつながる。</p> <p>本単元では、除数を何十の数とみることによって商をたてる。まずは除数を何十とみることによって九九を適用して商の見当をつけることができる。21を20とみたり、29を30とみたりすることがこれにあたる。25などについては、被除数にも着目することも大切である。25を20とみたり30とみたりするなど、柔軟な見方ができるようにすることが大切である。</p>	<p>3学年「あまりのあるわり算」では、「<math>23 \div 6 = 3</math>あまり5」を「<math>6 \times 3 + 5 = 23</math>」と表現する経験をしている。これは、偶数を「<math>2 \times \square</math>」奇数を「<math>2 \times \square + 1</math>」といったように、式を用いて端的に構造を表現することにつながる。本単元では、数直線上で偶数と奇数の並び方を確かめることにより、偶数と奇数は交互に並んでいること、偶数、奇数の2つの集合が整数全体の集合を構成していること、0は偶数に入れるのが適当であることなどの考察に用いることになる。</p> <p>また、乗法及び除法に着目し、ある数の倍数や約数の全体を1つの集合としてとらえることを学習する。この内容は、分数を通分したり、約分したりするための基礎ともなる。</p>
3	児童の実態	<p>児童観は省略</p>	
4	指導にあたって	<p>商がどこの位に立つのかを考えるには、わる数を何十とみることの他にわられる数が何百であるかを考える必要がある。具体場面を想起して考えさせることにより、商に立つ数が具体場面に合うかどうかを確かめることができる。また、ふりかえりの質を高めるために、望ましいふりかえりを紹介したり、ふりかえりを書く時間を確保したりする。「やってみよう」を明確にすることで主体的・自立的な学びにつなげたいと考える。</p>	<p>まずは、既習内容のかけ算やわり算についてしっかりおさえられているかどうかを確認する。その上で、数直線図や図を活用して整数の性質について視覚的に理解できるようにする。また、「偶数」「奇数」「倍数」「約数」「公倍数」「最小公倍数」「公約数」「最大公約数」などの算数用語が出てくる。意味の理解を促すために意味と用語を教室に掲示したり、具体的な数と倍数を求める経験を、単元を通して何度も経験できるようにしたりしていく。</p>
5	目標	2～3位数を2位数でわる除法計算について理解し、その計算が確実にできるようにするとともに、数学的表現を適切に活用して計算を工夫したり計算の確かめをしたりする力を養い、基本的な計算を基に考えた過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。	偶数、奇数及び倍数、約数などについて知り、整数の性質についての理解を深め、観点を決めて整数を類別したり数の構成について考えたりする力を養うとともに、整数を乗法や除法に着目して類別した過程を振り返り、そのよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。
	評価規準	<p>知識・技能</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①除数が2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を元にしてできることを理解している。また、その筆算の仕方について理解している。</li> <li>②除法の計算が確実にでき、適切に用いることができる。</li> <li>③除法について、次の関係を理解している。 (被除数) = (除数) × (商) + (余り)</li> <li>④除法に関して成り立つ性質について理解している。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①整数は、観点を決めると偶数と奇数に類別されることを知っている。</li> <li>②約数・倍数について知っている。</li> </ol>
	主体的に学習に取り組む態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>①数量の関係に着目し、計算の仕方を考えている。</li> <li>②数量の関係に着目し、計算に関して成り立つ性質を見いだしている。</li> <li>③計算の仕方や計算のきまりを活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①乗法及び除法に着目し、観点を決めて整数を類別する仕方を考えたり、数の構成について考察したりしている。</li> <li>②整数の性質を図や式を用いて考え表現している。</li> </ol>

6-① 単元の指導計画（第4学年）

時	目標	学習活動	☆記録に残す評価		
			知	思	態
第1小単元 何十でわる計算					
1	○10のまとまりを用いて、何十でわる計算の仕方を理解し、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。</li> <li>60÷20、90÷20の計算の仕方を考え、まとめる。</li> </ul>	① ノート	② 観察	
第2小単元 2けたの数でわる筆算（1）					
2	○2位数÷2位数（仮商修正なし）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。</li> <li>84÷21の筆算の仕方を考える。</li> <li>除数20（切り捨て）とみて、商の見当をつける。</li> </ul>		① 観察 ノート	
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>84÷21の筆算の仕方をまとめる。</li> <li>87÷21の筆算、検算をする。</li> </ul>	①③ ノート		
4	○2位数÷2位数の筆算で、過大商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>86÷23の筆算の仕方を考える。</li> <li>除数20（切り捨て）とみて、商の見当をつける。</li> <li>過大商の場合の仮商修正1回の仕方を理解し、この型の練習問題に取り組む。</li> <li>81÷12の筆算の仕方を考える。</li> <li>過大商の場合の仮商修正2回の仕方を理解し、この型の練習問題に取り組む。</li> </ul>	① ノート		
5	○2位数÷2位数の筆算で、過小商をたてたときの仮商修正の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>78÷19の筆算の仕方を考える。</li> <li>除数20（切り上げ）とみて、商の見当をつける。</li> <li>過小商の場合の仮商修正の仕方を理解し、この型の練習問題に取り組む。</li> </ul>	② ノート		
6	○除数に着目して、2位数÷2位数の筆算で、除数の切り捨てや切り上げを選んで仮商をたてて計算し、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>87÷25の筆算の仕方を考える。</li> <li>除数を切り捨てた場合（過大商）と、切り上げた場合（過小商）の筆算の仕方を比べる。</li> <li>自分が仮商をたてやすい除数の処理の仕方を考える。</li> </ul>		① ☆ 観察 ノート	① ☆ 観察 ノート
7	○3位数÷2位数=1位数の筆算の仮商のたて方を2位数÷2位数の筆算の仕方を基に考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>153÷24の筆算の仕方を考える。</li> </ul>	② ノート		
第3小単元 2けたの数でわる筆算（2）					
8	○3位数÷2位数=2位数の筆算の計算方法を考え、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。</li> <li>345÷21の計算の仕方を考え、まとめる。</li> </ul>		① ☆ 観察 ノート	
9	○2位数÷1位数=2位数の筆算の仕方をういて、3位数÷2位数=2位数の筆算をすることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>練習問題に取り組む。</li> <li>476÷15で、除数を切り捨てた場合（過大商）と、切り上げた場合（過小商）の筆算の仕方を比べる。</li> </ul>	② ノート		
10 本時	○商に0がたつ場合（商が何十）の簡便な筆算の仕方や、除数が3桁の場合の筆算の仕方を、既習の除法の筆算の仕方を基に考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>941÷23、960÷16の筆算の仕方を考える。</li> <li>練習問題に取り組む。</li> <li>732÷216の筆算の仕方を考える。</li> <li>216を200と見て、仮商をたてる。</li> <li>練習問題に取り組む。</li> </ul>	① ノート		
第4小単元 わり算のせいしつ					
11	○除法の性質について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>商が等しいわり算の式を見比べて除法の性質について考える。</li> <li>除法の性質をまとめる。</li> </ul>	④ ノート	③ ☆ 観察 ノート	
12	○末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方を既習の除法の計算の仕方を基に考え、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>24000÷500の筆算の仕方を考え、末尾に0のある数の除法の簡便な筆算の仕方をまとめる。</li> <li>2700÷400の筆算の仕方と、末尾に0のある数の除法での余りの求め方を考える。</li> <li>末尾に0のある数の除法の仕方についてまとめる。</li> </ul>	④ ノート	②③ 観察 ノート	
まとめ					
13	○学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「たしかめよう」に取り組む。</li> </ul>	①②③④ ☆ ノート	①②③ ☆ ノート	
14		<ul style="list-style-type: none"> <li>「つないでいこう算数の目」に取り組む。</li> </ul>			① ☆ 観察 ノート

6-② 単元の指導計画 (第5学年)

時	目標	学習活動	☆記録に残す評価		
			知	思	態
第1小単元 偶数と奇数					
1	○「偶数」「奇数」の意味や性質を知り、整数は偶数と奇数に類別できることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書 P95 を見て、あたりとはずれをどのように2つに分けているか調べる。</li> <li>2つに分けられた数の特徴を調べて、整数の分け方を考える。</li> </ul>		① 観察 ノート	① 観察 ノート
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>偶数と奇数を、それぞれ2でわったときの余りについて調べる。</li> <li>用語「偶数」「奇数」の意味を知る。</li> <li>偶数、奇数はどのように並んでいるか調べる。</li> <li>すべての整数は、偶数と奇数に分けられることをまとめる。</li> </ul>	① ノート	① 観察 ノート	
3	○偶数と奇数を式に表し、その性質を考え、説明することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>偶数と奇数を、<math>2 \times \square</math>、<math>2 \times \square + 1</math>の式に表し、偶数と奇数の意味や性質を考える。</li> <li>偶数は2に整数をかけた数とみられることをまとめる。</li> </ul>		② ☆ 観察 ノート	
第2小単元 倍数と公倍数					
4	○「倍数」「公倍数」「最小公倍数」の意味について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉛筆とキャップの数が等しくなるのは何本のときか考える。</li> <li>用語「倍数」を知る。</li> <li>倍数の意味を確かめる。</li> </ul>	② ノート		
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>用語「公倍数」「最小公倍数」を知る。</li> <li>公倍数の意味を確かめる。</li> <li>数直線上でいろいろな数の公倍数を見つける。</li> </ul>	② ノート	① 観察	
6 本時	○2つの数の公倍数は、最小公倍数の倍数になっていることを理解し、2つの数の公倍数を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>4と6の公倍数の求め方を考える。</li> <li>公倍数は最小公倍数の倍数であることに気づき、公倍数の求め方に活用する。</li> </ul>		② ☆ 観察 ノート	
7	○2つの数の公倍数の求め方を活用して、3つの数の公倍数の求め方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2と3と4の公倍数の求め方を考える。</li> <li>2と3と4の公倍数は、最小公倍数の倍数になっているかを確認する。</li> </ul>	② ノート		
第3小単元 約数と公約数					
8	○「約数」「公約数」「最大公約数」の意味について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦12cm、横18cmの長方形の中に合同な正方形を敷き詰めるとき、すき間なく敷き詰められるのは、一辺の長さが何cmの正方形のときか考える。</li> <li>縦にすき間なく敷き詰められる場合を調べる。</li> <li>用語「約数」を知る。</li> <li>約数と倍数の関係をとらえる。</li> <li>約数の性質(ある数を約数でわった商もまたある数の約数になる)を調べる。</li> <li>横にすき間なく敷き詰められる場合を調べる。</li> </ul>	② ノート		
9		<ul style="list-style-type: none"> <li>縦、横ともにすき間なく敷き詰められる場合を調べる。</li> <li>用語「公約数」「最大公約数」を知る。</li> </ul>	② ノート		
10	○2つの数の公約数は、最大公約数の約数になっていることを理解し、2つの数の公約数を求めることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>24と36の公約数の求め方を考える。</li> <li>公約数は最大公約数の約数になっていることに気づき、公約数の求め方に活用する。</li> <li>3つの数の最大公約数を知る。</li> </ul>		② ☆ 観察 ノート	
まとめ					
11	○単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>倍数を活用して新幹線の座席の座り方を考え、式に表す問題に取り組む。</li> </ul>		② 観察	① ☆ 観察 ノート
12	○学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「たしかめよう」に取り組む。</li> <li>「つないでいこう算数の目」に取り組む。</li> </ul>	①② ☆ ノート	①② ☆ ノート	① ☆ 観察

7 本時の指導

		第4学年	第5学年
【直接指導の手立て】		日常場面（折り紙を配る場面など）を想起するよう促すことで、答えの予想や商の見当がつけられるようにする。	はじめの2つをみんなで一緒に考え、方法の見通しがもてるようにする。
【間接指導の手立て】		商の立つ位について迷う児童がいると予想されるため、仮商のたて方、商が立つ位置をおさえたヒントカードを準備しておく。早く解き終わった児童は、ドリルを進める。	「どのような方法で見つけたか」という視点でペアやグループの話し合いが進むように、学習リーダーへの指導を行っておく。
(1)	目標	商に0がたつ場合（商が何十）の簡便な筆算の仕方や、除数が3桁の場合の筆算の仕方を、既習の除法の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。	2つの数の公倍数は、最小公倍数の倍数になっていることを理解し、2つの数の公倍数を求めることができる。
(2)	評価規準	【知・技】既習の除法の筆算を用いて商に0がたつ場合（商が何十）の簡便な筆算の仕方や、除数が3桁の場合の筆算をすることができる。	【思・判・表】公倍数の意味や性質などに着目し、公倍数の求め方を考え、説明している。

(3) 本時の指導

		第4学年 (10/14時)	わたり	第5学年 (6/12時)
		・指導上の留意点 ◇評価 【手だて】 主な学習活動 ●発問 ○児童の反応		主な学習活動 ●発問 ○児童の反応 ・指導上の留意点 ◇評価 【手だて】
導入	【間接指導の手だて】 商の立つ位について迷う児童がいると予想されるため、仮商のたて方、商が立つ位置をおさえたヒントカードを準備しておく。  ・解き終わった児童はドリルに取り組むこととし、筆算技能の習熟を図る。	1 練習問題 ほじゅうヒ〜フに取り組む。 答え合わせをする。		導入 1 問題把握 4と6の公倍数を5つ求めましょう。 ○5つ見つけるのは難しそう。 ●公倍数が何個なら求められそうですか。 ○1こか2こくらい。 ●どうやって求めますか。 ○数直線を使って… ○九九の答えを書いて… ●4と6の公倍数を、小さい方から2つ見つけよう。 ・4の倍数…4, 8, 12, 16, 20, 24 ・6の倍数…6, 12, 18, 24 2 課題設定 公倍数をかんたんに見つける方法を考えよう。 3 見通し ●どのようにして見つけますか。 ○4も6も続きを書いて調べる。 ○まず4の方だけ書いて… ○わたしは6の方だけ書いて…
	・まずは途中で解いてみることで、前時との違いが明確になるようにする。  【直接指導の手だて】 日常場面（折り紙を配る場面など）を想起するよう促すことで、答えの予想や商の見当がつけられるようにする。	2 問題把握 941÷23、960÷16を筆算でしましょう。  ●問題を解いてみましょう。 ●今までの学習と違うところはなんですか。 ○一の位に何をたてたらよいかわからない。 ○十の位は商がたつけど、一の位は商がたたない。 3 課題設定 今までの筆算のやり方と同じ方法でできるか考えよう。 4 見通し ・商が立つ位をおさえる。 ・(1)、(2)に取り組む。 ・一の位に0がたつことをおさえ、まとめる。		展開 4 自力解決 ○4の倍数を調べる。 4, 8, 12, 16, 20, 24, 28, 32, 36, 40, 44, 48, 52, 56, 60 ○6の倍数を調べる。 6, 12, 18, 24, 30, 36, 42, 48, 54, 60 5 学び合い ・ペア・グループで答えやどのようにして見つけたか話し合う。
展開		5 自力解決 ・△4に取り組む ・早く終わった児童は、ほじゅうの問題に取り組む。 ・学習リーダーの進行で答え合わせをする。		●公倍数の見つけ方を比べましょう。 ○Aさんは、6の倍数の中から、4の倍数をさがしています。 ○Bさんは、4の倍数と6の倍数をどちらも書いて同じ数に印をつけています。 ○Cさんは、4の倍数を先に書いて、その中から6の倍数を探しています。 ●見つけた公倍数を並べてみて、気がつい

				<p>たことを話し合しましょう。</p> <p>○ 12, 24, 36, 48, 60 は、12 の倍数になっています。</p> <p>○12 を倍していけば・・・。</p> <p>○12 は、4 と 6 の最小公倍数です。</p> <p>○4 と 6 の公倍数は、最小公倍数 12 の倍数になっています。</p> <p>6 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4 と 6 の公倍数を求めるには、4 と 6 の最小公倍数 12 の倍数を求めればよい。</p> </div>	
展開	<p>【直接指導の手だて】 日常場面（折り紙を配る場面など）を想起するよう促すことで、答えの予想や商の見当がつけられるようにする。</p>	<p>6 学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 3 の <math>732 \div 216</math> に取り組む</li> <li>●商の見当のつけかたを考えましょう。</li> <li>○わる数が百の位までである。百の位、十の位に商はたたない。一の位にたつのではないかな。</li> <li>●具体の場面で考えてたしかめてみましょう。 「732 円持っています。216 円のパンは何個買えるでしょうか。」</li> <li>○たくさんは買えない。</li> <li>○2こか、3こくらい。</li> <li>○だから、商は一の位にたつ、でいいと思う。</li> <li>●<math>732 \div 216</math> の筆算の仕方を説明しましょう。</li> </ul> <p>7 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>商に0がたつわり算も、わる数が3けたになっても、筆算のしかたは同じ。</p> </div>	終末	<p>7 適応問題</p> <p>△2の問題に取り組む。</p> <p>△3の問題に取り組む。</p>	<p>・数値が変わっても同じ方法で解くことができるか問うことで、考え方を一般化する。</p>
終末	<p>◇知・技 既習の除法の筆算の仕方をういて商に0がたつ場合（商が何十）の簡便な筆算の仕方や、除数が3桁の場合の筆算をすることができる。</p>	<p>8 適応問題</p> <p>△5に取り組む。ほじゅう P143 へ～ホに取り組む。</p> <p>9 ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「何がどのように分かったのか」を具体的に書く。</li> <li>・「もっと考えてみたいこと」も書く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) わる数が3けたになっても、200 とみることや、仮商をたてて商の見当をつけることは、今までのやりかたと同じだとわかりました。 わたしは、あまりの大きさを最後に確かめないでまちがうことが時々あるので、わる数と比べて大きくないかしっかり考えたいです。</p> </div>		<p>8 ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「何がどのように分かったのか」を具体的に書く。</li> <li>・「もっと考えてみたいこと」も書く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(例) 4の段と6の段の九九を使えばかんたんに調べられることがわかりました。他の数でも、最小公倍数の倍数を使えば、両方の倍数を全部書かなくても求められることがわかりました。 箱のティッシュ以外にどんな問題ができるか考えてみたいです。</p> </div>	

(4) 板書計画

第4学年

問 941÷23, 960÷16 を筆算でしましょう。

4?

百の位に商はたたない。

20 とみて考える。

21÷23 はできない。

つづきはどのようにやるのかな?

200 とみて考える。

商は一の位にたつ。

2か、3かな。

課 今までのやり方と同じやりかたでできるか考えよう。

Ⓜ 商に0がたつわり算も、わる数が3けたになっても、筆算のしかたは同じ。

【自力解決】

21÷23 はできないから、0をかく。

0をかく。

0×23=0だから、0をかく。

0をかく。

20とみるか、10とみるか。

省略してもよい。

第5学年

問 4と6の公倍数を求めましょう。

- ・4の倍数…4, 8, 12, 16, 20, 24
- ・6の倍数…6, 12, 18, 24

課 公倍数をかんたんに見つける方法を考えよう。

【見通し】

- ・4の倍数を書いて調べる。
- ・6の倍数を書いて調べる。
- ・4と6の倍数を書いて調べる。

【自分の考え】

Ⓜ 4と6の公倍数を求めるときは、4と6の最小公倍数12の倍数を求めればよい。

【学び合い】

**4の倍数**  
4, 8, 12, 16, 20, 24, 28, 32, 36, 40, 44, 48, 52, 56, 60

**6の倍数**  
6, 12, 18, 24, 30, 36, 42, 48, 54, 60

【4と6の公倍数】  
12, 24, 36, 48, 60

12ずつ増えている

12の倍数

4と6の最小公倍数は12。

# 算数 1・2年

宮古市立川井小学校 令和7年9月5日(金)

第1学年 10よりおおきいかず  
(東京書籍「あたらしいさんすう1②」P36～47)

第2学年 ひっ算のしかたをかんがえよう  
(東京書籍「新しい算数2上」P86～99)



授業動画はこちら↑

## 自ら考え表現する児童生徒の育成

「できることを増やす指導」を通した「子どもを主語にした授業づくり」を目指して

### 本実践のポイント



#### ○児童の学習状況に応じたずらし・わたり の工夫

本時では、児童が主体的に学習を進めることを前提に、効率的な学習を実施するために「ずらし・わたり」を実施しています。また、教師は必要最低限の支援をする伴走者に徹しつつ、適宜必要な助言を行い、児童の学びを支えています。児童の様子を観察しながら、「わたり・ずらし」の時間を調整することで、直接指導・間接指導の効果を高める工夫をしています。



#### ○できることを増やすための「学び方」の確実な指導

授業においてさまざまな学び方を取り入れ、児童が学び方を習得し、必要に応じて自ら活用できるように育成していくことが必要です。学び方の紹介や活用、経験する機会を繰り返し設定することで、確実な定着を図り、自律的に学習できる児童の育成を目指しています。

#### 《視点1：個別・協働で学ぶことができる》

2年生の学習では、個別学習と協働学習の二つの学び方が設定されています。個別学習はじっくりと問題に取り組むために、協働学習は他者と確認し合いながら考えを深めるために効果的に機能しています。経験がある学び方のため抵抗感を感じられませんでした。活動の過程で学習が滞るような問題が発生した場合は即時または事後指導を行い、適宜改善を図ります。

#### 《視点2：主体的に学習することができる》

間接指導は、主体性の育成に向けた複式指導の大きな強みです。1年生のすごろくを使った学習からは、学習に夢中になれる課題(問い)設定の有効性が分かります。2年生の学習のまとめを行う時間では、学習ルールの捉え方にずれが見られる場面と、学習活動の決定に個人差が見られる場面がありました。児童の行動を価値づけたり、学級全員で改善方法を考えたりすることなどを通して、児童と教師が協働して学習環境整備を行うことができ、ひいては主体的に学習する児童の育成や、子どもを主語にした授業づくりの実現にも繋がります。



自ら考え表現する児童を育成するために、できることを増やす指導に注力しています。本時では、児童が考える場面や活動する場面を多く設定し、教師の助言を必要最小限に留めています。できることとできないことを、学習の中で児童と確認することで、児童も必要感をもった上で、できることを増やす学習活動に取り組んでいます。このことにより、児童の意欲的な学びや、自ら考え表現する児童の育成につながることを期待されます。

# 第1・2学年 算数科複式学習指導案

日時 令和7年9月5日（金）5時間目

児童 第1学年 2名

第2学年 6名

授業者 小原 千知

## 【第1学年】

### 1 単元名

10よりおおきいかず

（東京書籍「あたらしいさんすう1②」）

### 2 本時の目標（5／9）

数直線を知り、数直線で数が表せることや、20までの数についての大小や系列を理解することができる。

〔知識及び技能〕

### 3 評価規準

おおむね満足	努力を要する 児童への支援
数直線を用いて数の大小を比較している。 【知識・技能】	数直線上の数を具体物で確認して比較する。

### 4 本時の計画

#### （1）本単元について

本単元では、40までの数について、個数の数え方や読み方、書き方、数の構成等を理解し、10をひとまとまりにして数の数え方を考える力及び数の構成に着目して計算の仕方を考える力を養うとともに、数で表すことのよさを感じ、日常生活に活用しようとする態度を養う。児童は、10までの数の構成や大小、足し算と引き算について学習しており、2名とも数を正しく数えたり、計算したりすることができている。学習する前から100までの数の数え方を知っており、2飛ばしや5飛ばし、10飛ばしの数え方も大体できているため、数をまとまりとしてとらえる見方は身に付いていると思われる。しかし、児童のうち1名は、数の構成を考えることに不安があるため、本単元でも身近にある物やブロック等の具体物を使った学習活動を多く取り入れていきたい。

## 【第2学年】

### 1 単元名

ひっ算のしかたを考えよう

（東京書籍「新しい算数2上」）

### 2 本時の目標（5／10）

3位数－2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を、数の見方や既習の筆算の仕方を基に考え、説明することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

### 3 評価規準

おおむね満足	努力を要する 児童への支援
繰り下げて計算した筆算の既習を基に、十、百の位から繰り下げる筆算の仕方を、数の仕組み（十進位取り記数法）に着目して説明している。 【思考・判断・表現】	位取表や数カードを用いて、10は1が10集まった数、100は10が10集まった数であることを視覚的に示す。

### 4 本時の計画

#### （1）本単元について

本単元では、既習の筆算を基に2位数の加法及び減法の筆算の仕方について理解し、筆算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに計算方法を数学的表現を用いて考えた過程をふり取り、その良さに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。児童はこれまで、位取表を用いて筆算について考えたり説明したりすることを通して、計算の中で位が繰り上がったたり、繰り下がったたりすることの理解を深めていったので、本単元でもブロックや数カードを動かす活動を取り入れていきたい。

(2) レディネス問題の活用 (R7.8 実施)



(2) レディネス問題の活用 (R7.8 実施)



- ③ 40までの数についての系列、順序が分かっている。  
【手立て①】  
正答率 50% (A 児)  
→B 児は 5 飛びの数え方で誤答が見られたため、数直線での確認が必要。
- ④ 40までの数の大小比較ができる。  
【手立て①②】  
正答率 100%  
→A 児、B 児ともに悩む様子もなく答えることができていた。

- ① 2 位数－2 位数で、繰り下がりのある計算の仕方を筋道立てて説明している。  
【手立て①②】  
正答率 60% (A 児、C 児、E 児)  
→B 児は 29 を 2 と 9 に分けると答えたため、数カードでの確認が必要。D 児は 43 を 30 と 13 に分けた後、13 から 4 を引くと答えている。位取表を用いることで、計算の順序や段階を確かめる等の支援が必要。

(3) 本時の手立て

①数直線を用いたすごろくゲームで遊ぶ

実際にコマを動かすことで、正しく目盛りを読んだり、数えたりできるようにする。また、すごろくで使用する数直線の目盛りを増やしたり、目盛りに「〇マス進む」「〇マス戻る」等の指示を付けたりすることで、数直線の特徴や性質の理解を深め、数の大小や系列を実感できるようにする。

②数字の大小比較の際に理由も発表する

評価問題で 2 つの数字を比べる際に理由を問うことで、その数字が数直線上のどこに位置しているかに注目できるようにする。

(3) 本時の手立て

①既習の考えに着目する

2 位数同士の筆算の際には、数の仕組みに着目し、位ごとに計算すれば和や差が求められることや、一の位の和が 10 以上になると十の位に 1 繰り上がること、一の位の引き算ができない場合は十の位から 1 繰り下げることなどを学習している。前時に、新しく百の位から繰り下げることなどを学習しているので、既習を生かして考えることで本時の学習も同じ方法で筆算ができるという実感をもてるようにしたい。

②位取表や数カードを活用する

レディネステストの結果、数の仕組みに着目できていない児童、既習を生かして考えることができていない児童がいることが分かったので、本時でも同様のつまずきがあると考えられる。そこで、位取表や数カード等を用いることで 10 は 1 が 10 集まった数、100 は 10 が 10 集まった数という数の仕組み（十進位取り記数法）に着目し、一、十の位同士の計算の処理や百の位からの繰り下がりを実際に理解できるようにする。

5 本時の展開

第1学年		第2学年			
学習活動 ○考えられる児童の様子	指導上の留意点 ◆評価	直接 間接	学習活動 ○考えられる児童の様子	指導上の留意点 ◆評価	
<p>1 算数セットのすごろくゲームを行う。</p>	<p>・通常のすごろくゲームを行うことで数直線との違いに気付けるようにする。</p>	<p>やってみる（10分間）</p>	<p>つかむ（10分間）※課題把握・見通しまで終えたら児童に活動をゆだねる。</p>	<p>1 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>④146-89をひっ算でしましょう。</p> </div> <p>○昨日と同じで位ごとに計算すればよい。 ○繰り下がりがある。 ○百の位からも繰り下げないといけない。 ○答えは57だ。 ○どうやったの？</p> <p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>⑤どうやってひっ算すればよいか。</p> </div>	<p>・時間短縮のため問題は事前にノートに貼っておく。 【手立て①】</p>
<p>2 問題を把握する。 (1) 数直線のすごろくを提示する。 ○普通のと違ってまっすぐな道だ。 ○スタートが左でゴールが右にある。 ○横に進んでいく。 ○遊んでみたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>⑥すごろくゲームであそぼう。</p> </div> <p>(2) 遊び方の確認をする。 ○交代でやる。 ○サイコロを振って出た数の分だけ進む。</p>	<p>・すごろくを見て思ったことを自由に発言させることで数直線の特徴や性質について考えることができるようにする。</p> <p>・目盛りの上にコマを置いて進むことを確認し、数え間違いがないようにする。</p>		<p>つかむ（5分間）</p>	<p>やってみる（5分間）</p> <p>4 自力解決を図る。 ※筆算の答えを求めた後、計算の過程を言葉でもノートに書く。 ○一の位から計算する。 6-9はできない。 ○十の位から1繰り下げる。 16-9=7 ○十の位の計算をする。 繰り下げたから3-8はできない。 ○百の位から1繰り下げる。 13-8=5 ○百の位は繰り下げたから0。答えは57。 ○タブレットを使ったり位取表を書いたりして答えや筆算のやり方を確かめよう。</p>	<p>・タブレットに位取表や数カードを用意し、各自で選択して操作できるようにしておく。</p> <p>・言葉でも説明を書くことで自分の行った筆算をふり返り、数の仕組みや繰り下がりについて理解を深められるようにする。 【手立て②】</p> <p>◆既習を基に3位数-2位数の筆算の仕方を、式や言葉などを用いて数の仕組みに着目して考え説明している。</p>

<p>3 2人ですごろくゲームを行う。</p> <p>【1・2回戦】 通常の数直線のみが描かれたすごろくを使用する。</p> <p>【3回戦】 「進むマス」「戻るマス」のあるすごろくを使用する。</p> <p>例) ○3が出たから3目盛り進む。 ○「2戻る」に止まったから2目盛り戻る。</p> <p>※直接指導の際には、現時点でどちらが勝っているか、どの目盛りの位置にいるのかを問う。</p> <p>※4回戦以降は3回戦のすごろくを使用する。</p> <p>※2人ともゴールまで辿りついたら、最初から始める。時間まで繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目盛りの上にコマを置いて進めることで数直線の目盛りの数え方を間違えないようにする。</li> <li>「戻る」のマスを設定することで右に進むと数が増え、左に進むと数が減ることを実感できるようにする。</li> <li>自分の位置を確認することにより評価問題で扱う数の大小を意識できるようにする。</li> </ul> <p>【手立て②】</p>	<p>やってみる (15分間)</p>	<p>たしかめる (15分間)</p>	<p>5 筆算の仕方を全体で確認する。</p> <p>※1人が言葉で説明し、1人はその説明通りに黒板に筆算を書きこんだり位取表で数カードを操作したりする。</p> <p>6 学習をまとめる。 ○位が増えても、繰り返りの回数が増えても筆算の仕方は同じ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆算の説明が上手できない児童がいた時は、教科書の二次元コードをタブレットで読み取らせ、手本となる数カードの動きを確認させる。</li> </ul>
<p>4 数直線について分かった事をまとめる。 ○線がまっすぐで、目盛りの間が同じ長さだ。 ○0から始まって右に行くほど大きくなる。</p> <p>5 評価問題を解く。 ・どちらの数字が大きいでしょうか。</p> <p>① 9と11 ○11の方が2大きい。 ○11の方が右にあるから11の方が大きい。</p> <p>② 20と12 ○20の方が右にあるから大きい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆数直線の特徴や性質を理解し、数直線を用いて数の大小を比較している。</li> <li>理由も問うことで数直線の特徴や性質を理解しているかどうかも確かめる。【手立て②】</li> </ul>	<p>たしかめる (7分間)</p>	<p>やってみる (7分間)</p>	<p>7 評価問題を解く。</p> <p>① 113-65 ② 125-49 ③ 120-26</p> <p>※解き終わったら子ども同士で筆算の仕方を説明し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆算に不安がある児童は、位取り表や数カードを使うことで思考の手助けになるようにする。</li> </ul> <p>【手立て②】</p>
<p>5 学習をふりかえる。 ○数の線は1ずつ目盛りが増えたり減ったりしている。 ○数が順番に並んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どんなことがわかったかを聞くことで数直線の特徴や数の大小についての理解を深められるようにする。</li> </ul>	<p>ふりかえる (8分間)</p>	<p>ふりかえる (8分間)</p>	<p>8 学習をふり返る ○位が増えてもやり方は同じだから、数が大きくなってもできそう。 ○繰り返り下げるのは同じだとわかった。</p>	

④位をそろえて書く。一の位から計算する。引けないときは、1繰り下げる。

算数  
5・6年

第5学年 面積の求め方を考えよう  
(東京書籍「新しい算数5下」P49)

第6学年 円の面積の求め方を考えよう  
(東京書籍「新しい算数6」P127)

本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載

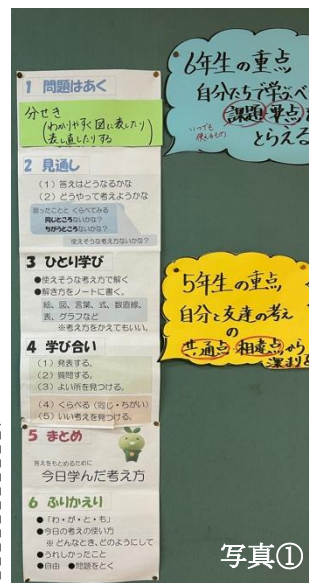


〇学びの重点を学年ごとに設定することで協働的な学習活動に深みを出す工夫

両学年共に、自力解決後の考えの共有は間接指導で行うようにしています。5年生は、互いの考えを比較する活動を1年間の重点に設定しています。そのことにより児童間で学びの山場が共有され、自分の考えをもった上で、方法や答えの違いに着目し、共通点や相違点を整理することで、その理由を話し合う姿が見られました。自分の考えに根拠があるからこそ、友達同士で考えを比較する活動に充実感を得ていました。その過程を繰り返すことで、粘り強く考える素地ができ、集団としての学びの質の向上の要因になっています。



5・6年生共に学習活動の重点を設けています。重点を決めることで5年生が6年生の姿から見えてくる学びに必要なスキルを意識することになり、複式のよさが最大限に引き出されています。【写真①】



写真①

〇振り返りの蓄積から生まれる児童のみでの課題設定

課題を立てるまでの過程で、これまでの学習の振り返りで蓄積した視点を根拠に課題設定することが習慣化されていたため、導入から自力解決まで、児童が主体的に学び、自らの力で単元のゴールにたどり着くことができました。【写真②】

本時の6年生の導入は、ただ問題をノートに書き写すのではなく、問題分析を行い、どんな考え方をすれば答えに近づけるのかを明確にしました。その後、答えに近づいていくための学習課題を全員で作りました。その際に振り返りカードを活用し、「図形を分けて求積したい。そのために、これまでに習った図形を組み合わせれば分けられるよいのではないかと構成要素に着目し、「分けて考えればよい」と、児童の協働的な活動により学習課題を立てることができました。年間を通して児童が学習課題を焦点化する活動を行い、問題解決の見方も養っています。【写真③】



学習リーダー等の役割を固定せず、児童全員が個人で学習課題を立てます。その後、キーワードになりそうなものを児童が整理し、全体で本時に考えたい学習課題を焦点化します。教師の求められる役割としては、本時まで単元全体で鍵となる見方・考え方を振り返りに蓄積させるような視点を与えることです。指導案に、毎時着目させたい視点を明記しています。児童はこれらの視点を生かし、見通しからまとめの段階まで、主体的に学び続けることができます。

この単元で使えそうな考え方	他の教科で使えそうな考え方	その他 気づいたこと
7/1 (56) 図形の面積を自分で考えようとする意識が湧き出てきました。	7/1 (56) 図形の面積の求め方を考えるとき、形を分けて考えることがわかりました。	7/1 (56) 自分から考え出すことができて、答えを出すまで諦めずに取り組むことができました。
7/2 (48) 100の位を分けて考えることができたので、100の位を分けて考えることができました。	7/2 (48) 今までの学習内容を思い出して、問題を解くことができました。	7/2 (48) 自分から考え出すことができて、答えを出すまで諦めずに取り組むことができました。
7/4 (46) 図形の面積を自分で考えることができました。	7/4 (46) 図形の面積を自分で考えることができました。	7/4 (46) 自分から考え出すことができて、答えを出すまで諦めずに取り組むことができました。
7/5 (45) 図形の面積を自分で考えることができました。	7/5 (45) 図形の面積を自分で考えることができました。	7/5 (45) 自分から考え出すことができて、答えを出すまで諦めずに取り組むことができました。

写真②



写真③

## 第5・6学年 算数科学習指導案

日 時 令和7年7月8日(火) 5校時  
児 童 5学年3名 6学年3名 計6名  
指導者 佐藤芳知

### 【5学年】

#### 1 単元名

「面積の求め方を考えよう」(東京書籍新しい算数5下)

#### 2 単元の目標と観点別評価規準

##### (1) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
四角形や三角形の面積の求め方を理解している。	図形の構成要素に着目し、面積の求め方を考えている。	四角形や三角形の面積の求め方について数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多角的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

##### (2) 観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①平行四辺形、三角形、台形、ひし形などの面積の求め方を理解している。 ②公式を用いて面積を求めることができる。	①図形の構成要素に着目し、既習の面積の求め方を基にして、図や式を用いて面積の求め方を考え、表現できる。	①四角形や三角形の面積の求め方について数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしていたりしている。

#### 3 単元の構想

##### (1) 児童について

児童観は省略

##### (2) 指導にあたって

本単元では、既習の求積方法に帰着させて基本図形の面積を求めることにとどまらず、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導き、それを用いていろいろな図形の面積を求めていく。その際、既習事項や図形を構成する要素に着目し、図形を多角的に捉え求積する力を育みたい。そして、図形の構成要素の理解を基に、児童らが協働的に学び合うことで、答えを導き出せるようにする。

第一次では、平行四辺形の求積方法を議論することを通して、本単元での課題を共有する。第二次では、三角形の図形の構成要素に着目し、求積方法を議論する。単元の後半では、台形やひし形の求積方法を児童自らが課題設定し、帰納的に考え、本単元の学習の意義を引き出していけるよう単元デザインを行う。

## 【6 学年】

### 1 単元名

「円の面積の求め方を考えよう」（東京書籍新しい算数6）

### 2 単元の目標と観点別評価規準

#### （1）単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
円の面積の計算による求め方を理解している。	図形を構成する要素に着目し、図形の面積について考えている。	円の面積の求め方を簡潔かつ的確な表現として公式として導いた過程を振り返り、多面的にとらえ検討してより良いものを求めて粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

#### （2）観点別評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①円の面積について、求め方や計算で求められることを理解している。 ②円の面積を求める公式を用いて、円などの面積を求めることができる。	①図形を構成する要素に着目し、円の面積の求め方を図や式を用いて考え、説明している。 ②円を含む複合図形の面積を、既習の求積可能な図形の面積を基にして分割して考え、図や式を用いて説明している。	①円の面積の求め方を簡潔かつ的確な表現として公式として導いた過程を振り返り、多面的にとらえ検討してより良いものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようとしたりしている。

### 3 単元の構想

#### （1）児童について

児童観は省略

#### （2）指導について

本単元では曲線で囲まれた図形である円の面積の求め方を、既習事項を根拠として、図形の構成要素に着目し、面積公式を導き出していく。その際、具体物の操作やICT機器を活用するか児童自らが選択し、円の面積の検討をつけながら公式を導き出し、自分の考えをよりよく表現できるようにする。

単元の後半では、円を含む複合図形の面積も、協働的な学び合いの中で、図形を構成する要素に全員が着目し、整理して求めることができるというよさに気づき、5年生との学習を絡ませながら、統合的な見方を養えるよう単元デザインを行っていく。さらに、多様にとらえ検討してより良いものを求めて粘り強く考えることのよさにも気づかせていく。

(3) 指導と評価の計画 (○指導に生かす評価 ☆記録に残す評価)

【5 学年】

【6 学年】

ねらい	中心となる学習活動 [共有したい言葉]	評価規準・評価方法			時	ねらい	中心となる学習活動 [共有したい言葉]	評価規準・評価方法		
		知・技	思・判・表	態度				知・技	思・判・表	態度
平行四辺形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明することができる。	・長方形に等積変形する平行四辺形の面積の求め方を説明する。 [変形 習ったことが使える]		○① 行動観察 ノート分析	☆① ロイロ	1	円のおよその面積を求めることができる。	・円の面積の求め方を考え、見当をつける。 【正方形 半径】	○① 行動観察 ノート分析		
	・平行四辺形の底辺、高さの意味を知る。 ・公式が成り立つ意味を考える。 [底辺 高さ]	○② 行動観察 ノート分析	○① 行動観察 ノート分析		2		・既習の面積の求め方を活用して、およその面積を求める。 【正多角形 半径】	○① 行動観察 ノート分析	☆① ロイロ	
平行四辺形の高さに着目し、外にある場合と内にある場合を高さとして統合的にとらえる。	・高さが平行四辺形の外にある場合の面積の求め方を説明する。 [底辺 高さ]	○① 行動観察 ノート分析		☆① ロイロ	3	円の面積を求める公式を理解する。	・簡単に正確に円の面積を求める方法を考える。 【長方形 円周 半径】	○① 行動観察 ノート分析	○① 行動観察 ノート分析	
どんな形の平行四辺形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積が等しいことを理解する。	・平行な2直線上にある平行四辺形の面積を求め、面積が等しいことを求める。 [底辺 高さ 平行]	○① 行動観察 ノート分析		☆① ロイロ	4	円の面積を求める公式を、半径×半径に着目して、円周率についての理解を深める。	・長方形の面積を求める公式を変形して、円の面積を求める公式をまとめる。 【円の面積の公式 扇形】	☆② 行動観察 ノート分析		
三角形の性質に着目し、面積の求め方を図や式を用いて説明できる。	・三角形の面積の求め方を既習の図形に帰着して説明する。 【分ける 変形】		○① 行動観察 ノート分析	☆① ロイロ	5 本時	円を含む複合図形の面積の求め方を考え、図や式を用いて説明できる。	・複合図形の面積の求め方を考える。 【分ける 正方形 扇形】		☆② 行動観察 ノート分析	☆① ロイロ
三角形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明できる。	・倍積変形した平行四辺形と三角形の構成要素に着目し、三角形の面積を求める公式を考える。 【底辺 高さ】	○② 行動観察 ノート分析			6	単元の学習の活用を通して事象を数理的にとらえ論理的に考察し、問題を解決する。	・円の面積を活用して、簡単に問題を解く方法を考える。 【円周 倍】	☆① 行動観察 ノート分析	☆① 行動観察 ノート分析	
三角形の高さに着目し、外にある場合と内にある場合を高さとして統合的に捉える。 どんな形の三角形でも、底辺の長さが高さが等しければ、面積が等しくなることを理解する。	・平行な2直線上にある三角形の面積の求め方を考える。 【底辺 高さ】		☆① 行動観察 ノート分析		7	学習内容の定着を確認し、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	・「たしかめよう」に取り組む。	☆①② 行動観察 ノート分析	☆①② 行動観察 ノート分析	☆① 行動観察
台形の性質に着目し、面積の求め方を考え、説明できる。	・台形の面積の求め方を、既習の図形に帰着して考える。 【分ける 変形】		☆① 行動観察 ノート分析	☆① ロイロ	8					
台形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明することができる。	・台形の面積を求める公式を考える。 【上底 下底 高さ】		○① 行動観察 ノート分析		9					
ひし形の性質に着目し、面積を求める公式を考え、説明できる。 たこ形の性質に着目し、たこ形の求積方法を公式を活用して説明できる。	・ひし形の面積の求め方を、既習の図形に帰着して考える。 【対角線】	○② 行動観察 ノート分析		☆① ロイロ	10					
三角形の底辺の高さを一定にして、高さを変えたとき、面積は高さに比例することを理解する。	・底辺を固定し、高さを変化させたときの、面積について考える。 【高さ 比例】	☆① 行動観察 ノート分析			11					
学習内容の定着を確認し、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける。	・「たしかめよう」に取り組む。	☆①② ノート分析	☆① 行動観察 ノート分析	☆① 行動観察	12					

4 本時の指導

(1) 目標

【5学年】 三角形の面積の求め方を、三角形の性質に着目し、図形を多角的に捉え、式や図に表す活動を通して、既習事項を用いた問題解決の仕方を表現することができる。

【6学年】 円の面積の求め方を、円の性質に着目し、図形を多角的に捉え、式や図に表す活動を通して、公式を用いた問題解決の仕方を表現することができる。

(2) 評価規準

	おおむね満足	努力を要する児童への手立て
5 学 年	式や図、言葉など多様な方法で説明することができる。	他の図形で使った考え方を想起させる。
6 学 年	複合的な図形を、公式を用いて考え、問題解決に向けて適切に判断している。	パーツごとの答えの数値を示し、組み合わせ方について考える活動に焦点化する。

(3) 本時の展開

・指導上の留意点 ☆評価 ■授業デザインの工夫	5年生 ○学習活動 ●協働的な学習活動 ・予想される児童の反応	直接指導		6年生 ○学習活動 ●協働的な学習活動 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価 ■授業デザインの工夫
		間接指導			
・変形して面積を求めたことを想起させる。	●前時までの学習の振り返り。  1 問題把握 面積の求め方を説明しましょう。	導入 3分	導入 3分	1 問題把握  ○問題を読み、題意をつかむ。 ・このままでは求められない。 ・図形の見方を変えればよいのではないか。  2 課題把握 ○個人で課題設定 ●全体で共有する	■自分で何が分からないのかを明確にさせるために、個人で課題を作る。  ・本時で考えた課題を焦点化し、学び合いの軸を決める。
◎三角形の面積の求め方を考えよう。	3 見通し ○これまでの学びを生かして、どんな方法が使えるか考える。 ・これまでは、変形して考えた。 ・平行四辺形にする。 ・長方形にする。	7分	7分	◎図形の見方を変えて、複雑な図形の面積を求める方法を考えよう。  ○なぜこの課題になるのか確認する。	
■求め方の見当をつける。	4 自力解決 ○自分の考えをシートに記入し、掲示する。				

<p>☆図形の構成要素に着目し、既習の面積の求め方を基にして、図や式を用いて面積の求め方を考え、表現している。 (思・判・表①)</p> <p>・表すことができることに気づかせる。 (既習のよさ)</p> <p>・児童に考えを板書させ、そこから要点を共有する。</p>	<p>4 自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三角形を組み合わせて平行四辺形をつくり、半分にする。</li> <li>・長方形をつくり、半分にする。</li> <li>・三角形を分けて平行四辺形をつくる。</li> </ul> <p>5 学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●3人の考えを並べ、共通点や相違点を確認する。</li> <li>共通点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の形を、面積を求められるものに変えている</li> </ul> </li> <li>相違点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・分け方が違う(大きさは同じ)</li> </ul> </li> </ul> <p>○気づいたことを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分け方が違って、分けるといふ考え方は同じである。</li> <li>・習った図形を生かすことで、初めて出会う図形も理解することができる。</li> </ul> <p>7 まとめ</p> <p>○三角形の面積の求め方をまとめる。</p>	<p>展開</p> <p>5分</p> <p>9分</p> <p>9分</p>	<p>展開</p> <p>5分</p> <p>9分</p> <p>9分</p>	<p>3 見通し</p> <p>○方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーツごとに分けて考える。</li> <li>・組み合わせて考える。</li> </ul> <p>○答え</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正方形よりは小さい。</li> </ul> <p>4 自力解決</p> <p>○図と式で表す。</p> <p>5 学び合い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全体で考えの共有を行う。</li> <li>○大事なことは何か考える。</li> <li>・求められる図形を組み合わせ、答えを求められる。</li> <li>・考え方は複数通り存在する。</li> </ul> <p>6 まとめ</p> <p>○複雑な図形の面積の求め方はどのように求めると、考えやすいかをまとめる。</p>	<p>■方法の見通しと答えの見通しを分けて考える。</p> <p>■ICTを活用するか、具体物を使うか、児童自身が選択する。</p> <p>☆円を含む複合図形の面積を、既習の求積可能な図形の面積を基にして分割して考え、図や式を用いて説明している。 (思・判・表②)</p> <p>・児童に考えを板書させ、そこから要点を共有する。</p>
<p>③三角形の面積は、習った図形を組み合わせることで答えを求められる。</p>	<p>④複雑な図形でも、習った図形を組み合わせることで答えを求められる。</p>	<p>9分</p> <p>9分</p>	<p>9分</p> <p>9分</p>	<p>7 練習問題に取り組む。</p>	
<p>■次の学習の時に、生かすことのできる見方や考え方を価値づける。</p>	<p>8 振り返り</p> <p>○既習を使うよさや、6年生の学習と共通していることを振り返る。</p>	<p>終末</p> <p>7分</p>	<p>終末</p> <p>7分</p>	<p>8 振り返り</p> <p>○5年生のときの考え方と共通していることについて振り返る。</p>	<p>■次の学習の時に、生かすことのできる見方や考え方を価値づける。</p>

国語  
3・4年

岩手大学教育学部附属小学校 令和7年11月26(水)

第3・4学年「物語を読んで、芽生えた問いを追究しよう」  
「モチモチの木」(光村図書3年下)  
「スワンレイクのほとりで」(光村図書4年下)

本実践のポイント

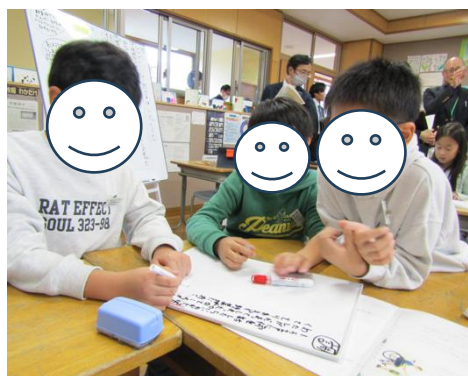
※指導案は次ページに掲載



〇間接指導における自立的な学びを実現するための直接指導

各学年の直接指導の場面において、個々の問いを抽出し全体で共有することで、相互作用が起こり、読みが深まっていくような直接指導→間接指導のプロセスを構築しました。その際、同じ問いをもっている子供同士を結びつけたり、過去に同じ問いを追究したことがある友達を認識させたりしました。また、一見異なる問いでも、追究のプロセスにおいて相互にその答えを導くことができそうな子供同士を繋ぎ、その追究の糸口をともに探っていくことで、間接指導の場面において必要に応じて他者と関わり目的をもって追究する、自立した読みを促しました。

【問いのブリッジング】



〇子供が追究の方法を主体的に決定できる場の設定

同じ問いをもっている子供同士、あるいは友達の間に関心をもったと子供同士で、ペアあるいはグループを形成し、協働的に追究する様子が見られました。必要に応じてホワイトボードや黒板を使ってそれぞれの考えを比較しながら、問いに対する考えの検討を重ねていきました。相手やツールを自由に選択できる環境の整備が、自立的な読みへとつながると考えます。

芽生えた問いを追究し、物語を読み味わおう	中心学習材「スワンレイクのほとりで」	【探究のゴール】「スワンレイクのほとりで」を読み学んだ問いを追究する場面を通して、物語を読み味わう【問いごとって面白い】と実感できるようにする。						
12/8	12/3	12/2	12/1	11/26	11/21	11/20	11/19	11/18
なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか
なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか
なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか	なぜかんだのか



〇「学びの戦略シート」の活用による学びの自覚化

子供たちが自立的に問いを追究し読みを深められるように、間接指導前に追究する問いを確かめたり追究方法の見直しをもてるようにしたりするために、「学びの戦略シート」を活用しました。追究の段階において単位時間ごとに記入を促すことにより、意図的・選択的に学びの方針を決められるようにするとともに、単元を通じた学びの履歴がいつでも一覧できるような学びのツールの実現を目指しました。

なぜ題名がスワンレイクのほとりでなのか

〇〇ちゃんもホワイトボードでシンキングツールを考えた。

なぜグレンは歌を野菜畑に連れて行ったのか

ホワイトボードでシンキングツールから予想をはやして考えた。

結論を出すことができず、自分の予想から合ってそれを選んで結論を出しました。

それぞれシンキングツールを使い予想を自分なりに出した



単元全体を通して、子供が自分の問いの解決に向けて探究的な学びに主体的に取り組む姿が見られました。学びの戦略シートを通じて子供自身が他の友達の追究状況を確認したり、教師が子供同士を意図的に繋いだりすることで、読みを深めながら資質・能力を高めていく子供の姿を見取ることができました。

# 複式3・4学年 国語科学習指導案

場 所 すずらん組教室  
授業者 伊藤翔悟

1 単元名 物語を読んで、芽生えた問いを追究しよう

## 2 学習材名

- 3年 「モチモチの木」(光村図書3年下)
- 4年 「スワンレイクのほとりで」(光村図書4年下)

## 3 単元について

3年 児童観	4年 児童観
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 20px; padding: 20px; width: fit-content; margin: auto;"> <h3 style="margin: 0;">児童観は省略</h3> </div>	

3年 学習材観「モチモチの木」	4年 学習材観「スワンレイクのほとりで」
<p>本学習材は、物語の内容や語られ方に対する問い、豆太の行動や心情に対する問い、作品のテーマに迫る問いなどの多様な問いの芽生えが期待できる。問いの追究を通して、本当の強さや勇気がどのようにして生まれたのか自分の考え方や生き方と比べながら考え、物語の世界観を読み味わうことができる作品である。</p>	<p>本学習材は、子どもと同年代の中心人物による一人称視点で語られた物語であり、子どもにとって人物の行動や心情に対する問いが芽生える物語である。また、「現在→過去→現在」というストーリーの構造に着目することで、これまでに読んできた時系列の構造の物語との比較が生じるなど、形式に対する問いが生まれることも期待できる。</p>

### 複式指導について

- ・指導の重点化を図るために、指導内容の精選を図る。
- ・間接指導時において、子どもたちが自立的に問いを追究し読みを深められるように、間接指導前に追究する問いや追究方法の見通しをもてるよう学習シートを活用する。追究の段階において単位時間ごとに記入を促すことにより、意図的・選択的に学びの方針を決められるようにするとともに、単元を通した学びの履歴がいつでも一覧できるような学びのツールの実現を目指す。【学びの戦略シートの活用】
- ・個々の子どもに芽生えた問い同士を、意図的に橋渡しすることで、相互作用が起こり個の読みが深まっていくような直接指導→間接指導のプロセスを構築する。具体的な手立てとして、各学年の直接指導の場面において、個々の問いを抽出し、全体で共有する。その際、同じ問いをもっている子ども同士を繋いだり、過去に同じ問いを追究したことがある子どもを認識させたりする。また、一見異なる問いでも、追究のプロセスにおいて相互にその答えを導くことができそうな子ども同士を繋ぎ、その追究の糸口をともに探っていくことで、間接指導の場面において必要に応じて他者と関わり目的をもって追究する、自立した読みを促していく。【問いのブリッジング】

3年 指導観	4年 指導観
<p>本単元では、物語を読んで芽生えた問いを追究することを中心的な言語活動とする。1単位時間は基本的に直接指導→間接指導の順に行う。間接指導において見通しをもって追究できるよう、問いを明確にしたり関連性のある問いをもっている子ども同士を繋いだりするようなやり取りをしていく。</p>	<p>本単元では、物語を読んで芽生えた問いを追究することを中心的な言語活動とする。1単位時間は基本的に間接指導→直接指導の順に行う。間接指導の際に目的的に追究し読みを深められるように、前時の直接指導時に問いを明確にしたり関連性のある問いをもっている子ども同士を繋いだりするなど、単元を意識した指導を行う。</p>

#### 4 単元の見目標

	3年生	4年生
知識及び技能	・言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。	・言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
思考力、判断力、表現力等	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像することができる。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像することができる。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
学びに向かう力、人間性等	・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書し、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。	・言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書し、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

#### 5 単元の評価規準

	3年生	4年生
知識・技能	・言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 1 (オ)	・言葉には性質による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。 1 (オ)
思考・判断・表現	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。C (1) エ ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 C (1) オ	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像している。C (1) エ ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 C (1) オ
主体的に学習に取り組む態度	・進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語を追究している。	・進んで登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結びつけて具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語を追究している。

#### 6 単元の指導と評価の計画 (全8時間)

評価	主な学習活動と評価				評価
	3年生	時	次	時	
	○中心学習材と出会い、感想や問い、単元の学習で解決したいことを表現する。 ○物語の構造と内容をつかむ。 ○これまでの読みの学習を通して問いを整理し、単元の学習計画を立てる。	1 2 3	第一次	1 2 3	○中心学習材と出会い、感想や問い、単元の学習で解決したいことを表現する。 ○物語の構造と内容をつかむ。 ○これまでの読みの学習を通して問いを整理し、単元の学習計画を立てる。
【知】 (1)  【思】 C (1) エ・オ	○学習計画に沿って、学習活動を進める。  【問いの芽生えにつながり得る読みの着眼点】 気持ちの変化、性格、行動、物語の展開、物語の結末、情景描写、自己との比較、物語の象徴「モチモチの木」、作品の核(テーマ) …  【追究の基本的な流れ】 ①問いを確かめ、追究方法を設定する。 ②追究する。 (直接指導→間接指導：個人/協働) ③自分の考えをまとめる。 ④考えを共有し追究を振り返る。	4 5 (本時) 6 7	第二次	4 5 (本時) 6 7	○学習計画に沿って、学習活動を進める。  【問いの芽生えにつながり得る読みの着眼点】 語りの視点(一人称)、心情の変化、心内語、情景描写、物語の構成(現在→過去→現在)、人物の関係、物語の結末、自己との比較、作品の核(テーマ) …  【追究の基本的な流れ】 ①問いを確かめ、追究方法を設定する。 ②追究する。 (間接指導：個人/協働→直接指導) ③自分の考えをまとめる。 ④考えを共有し追究を振り返る。
【主】	○本単元における追究の成果をまとめる。 ○単元の学習を振り返る。	8	第三次	8	○本単元における追究の成果をまとめる。 ○単元の学習を振り返る。

## 7 本時の指導（5／8）

### （1）目標

物語を読んで芽生えた問いについて、登場人物の心情や情景、場面の移り変わりに着目しながら、追究することができる。

### （2）展開

3年生		4年生	
指導上の留意点◇評価	主な学習活動	主な学習活動	指導上の留意点◇評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの戦略シートを活用し、本時までの追究状況を確認しながら追究の見通しをもてるようにする。</li> <li>・個々の問いを共有し、その追究の着眼点について話し合うことで、間接指導における追究の方針を定められるようにする。</li> <li>・学びの戦略シートを活用し、振り返りを促す。</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">芽生えた問いを追究しよう。</div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの戦略シートを活用し、本時までの追究状況を確認しながら追究の見通しをもてるようにする。</li> <li>・個々の問いと追究の状況を共有することで、次時の間接指導における追究の見通しをもてるようにする。</li> <li>・学びの戦略シートを活用し、振り返りを促す。</li> </ul>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時に追究する問いと学び方を設定し、追究の見通しをもつ。</li> <li>2. 問いの共有と、解決の糸口となる着眼点を確認する。【直接指導】</li> <li>3. 直接指導での解決の見通しをもとに、問いに対する自分の考えをもつ。【間接指導】</li> <li>4. 本時の学びを振り返る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本時に追究する問いと学び方を設定し、追究の見通しをもつ。</li> <li>2. 問いに対する自分の考えをもつ。【間接指導】</li> <li>3. 間接指導における追究を共有し、読みを広げたり、新たに芽生えた問いを確認したりする。【直接指導】</li> <li>4. 本時の学びを振り返る。</li> </ol>	
◇根拠と理由を明示し、芽生えた問いを追究しているか確認する。			◇根拠と理由を明示し、芽生えた問いを追究しているか確認する。

# 音楽 5・6年

岩手大学教育学部附属小学校 令和7年5月22日(木)

第5・6学年「いろいろな音のひびきを味わおう」  
鑑賞 管弦楽組曲「惑星」から 木星  
(教育芸術社「小学生の音楽6年」P16～17)

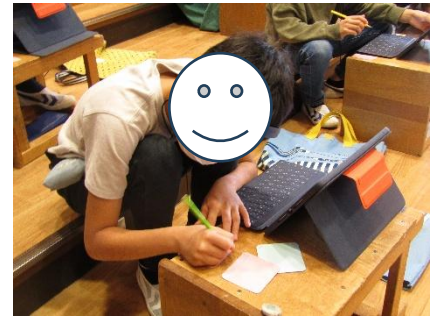
## 本実践のポイント

※指導案は次ページに掲載



### 〇音楽に憧れが生まれるような教材との出会い

「木星」と対照的な楽曲である「火星」を比較対象として提示し、「木星」のよさや美しさについてより考えを深めることができるようにしました。導入で聴き比べることで、子供たちは「他の惑星の曲もぜひ聴いてみたい」「どうして木星には〇〇な魅力があるのだろう」と話しながら、追究への意欲を見せていました。



### 〇自分の考えをもつための個人時間の設定

ロイロノートに「火星」と「木星」の音源を用意し、演奏箇所を選んだり、繰り返したり、比較したりしながら聴くことができるようにしました。1単位時間内に個人の時間を保障することで、子供たちは楽曲に対する自分なりの考えをもつことができました。その後の共有で全員が関わることができたのも、この時間が有効に働いたからだと考えます。



### 〇「無音の交流」と「会話による交流」の区別

個人時間の活動中、付箋に自分の意見を書き、模造紙に貼る活動を取り入れました。友達の見解から新たに気付いた自分の意見も付箋に書き、模造紙の中で会話を行いました。無音の交流の中で、じっくり考える時間の確保をしつつ、「早く会話で交流したい」という意欲をもたせました。

自分が気付いた魅力と、友達と関わって気付いた魅力を合わせて、「木星」のよさや美しさについて自分なりの言葉で表現することができました。



〈子供の振り返りから〉

「木星」は、早く細かい音がキラキラ鳴る部分と、ゆったり優しく演奏する部分があって、静と動のその差が、木星だけのいいところなのだと思います。〇〇さんが速さも注目していて、確かに速さも変わっているんだなと思いました。

音楽を形作っている要素の中でも、特に「音色」「旋律」「反復」「変化」に着目させて聴きました。本時が終わった後も、休み時間などに惑星の曲を聴いてみると、子供たちは自由に話し合いを始めましたが、変わらずその4点に着目していました。要素の扱いという点においても、一人で考えを形成する時間は有効に作用していました。

## 第5・6学年 音楽科学習指導案

日 時 令和7年5月22日(木)

場 所 音楽室

児 童 5・6年かつら組

指導者 白築 了太郎

### 1 題材名 いろいろな音のひびきを味わおう

### 2 題材について

#### ◇題材の目標◇

- ・曲想及びその変化と、音色などの音楽の構造との関わり、多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり、いろいろな音の響きやそれらの組合せの特徴や、音のつなげ方や重ね方の特徴について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解する。
- ・音色、リズム、旋律、音の重なりなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととのかかわりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴く。
- ・いろいろな音色が重なって生まれる響きを味わいながら聴いたり表現したりする学習に興味・感心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、様々な楽器の音色やオーケストラの響きに親しむ。

#### (1) 学習指導要領との関連

【B鑑賞】 ア、イ

〔本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素〕  
ア 音色、旋律  
イ 反復、変化

#### (2) 題材設定の理由

5年生の児童は打楽器、金管楽器、木管楽器、弦楽器の音色に着目して学習を進めてきた。そして6年生は5年生の時にオーケストラの響きにも親しんでいる。本題材では、既習を基にしながら、いろいろな楽器の音色が組み合わさって生まれる響きの美しさや豊かさなどを味わうことで、オーケストラのよさや面白さについて考えることをねらいとしている。

また、「木星」で使われている様々な楽器の音色やそれらの楽器で奏でられる旋律、曲中に散りばめられている反復や変化などの要素に注目しながら聴くことで、演奏から感じ取ったことと音楽の要素との関連に気付くことができると考える。

#### (3) 教材について

○木星 ホルスト作曲

「木星」は、イギリスの作曲家グスターヴホルストの作品である。テレビや歌唱曲として広く知られており、子供にとって馴染みの深い曲である。4つの旋律が繰り返し登場するアの部分と、ゆったりとした4分の3拍子のイの部分の違いが非常に明確であるため、反復や変化といった特徴に気付きやすい。また、旋律を覚えることも容易であるため、旋律の特徴にも着目しやすい。

さらに、様々な楽器が交代に登場したり重なりを変化させながら演奏したりすることで楽器の音色にも着目しやすい。

以上のことから、本題材で扱う、音楽を形づくっている要素について考えることに適している。

### 3 題材の指導及び評価計画

#### (1) 評価規準

知 知識・技能	思 思考・判断・表現	態 主体的に学習に取り組む態度
曲想およびその変化と、音色などの音楽の構造との関わりについて理解している。	音色、旋律、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。	いろいろな音色が重なって生まれる響きを味わいながら聴いたり表現したりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

#### (2) 題材の指導及び評価

時	主な学習活動	評価規準		
		知	思	態
1	<p><b>態</b> 曲想およびその変化と、オーケストラの楽器の音色や旋律の反復や変化との関わりについて考える学習に、主体的・協働的に取り組もうとしている。</p> <p><b>知</b> 旋律の反復や変化、楽器の音色の変化などに気付き、曲の構成を捉える。</p> <p><b>思</b> オーケストラの楽器の音色や、その楽器によって奏でられている旋律に着目しながら、曲全体を味わって聴く。</p>	↓	↓	↓
2 本 時	<p><b>思</b> オーケストラの豊かな響きのよさや美しさを見だし、曲全体を味わって聴く。</p> <p><b>態</b> 主体的・協働的に「木星」のよさや面白さ、美しさについて話し合う。</p>		↓	↓

#### 4 本時の展開（本時2 / 2）

##### ◇本時の目標◇

- 思** 音色、旋律、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くことができる。
- 態** いろいろな音色が重なって生まれる響きを味わいながら聴いたり表現したりする学習に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

##### 【重点1】 音や音楽への憧れが生まれる教材との出会い方の工夫

- ・「木星」と対照的な楽曲である「火星」を比較対象として提示し、「木星」のよさや美しさを改めて感じ取ることができるようにする。
- ・個人で考える時間を保障し、楽曲との関わり方を自己決定することができるようにする。
- ・自分の考えの根拠・参考にすることができそうな友達の意見を見付けて交流し、楽曲への見方をさらに深めることができるようにする。

(2) 展開

学習活動	○支援 ☆評価 【重点】
1. 「火星」「木星」を聴き比べ、感想を話し合う。 2. 学習課題を把握する。	○「火星」と「木星」について、曲想が大きく異なっていることに気付かせ、「木星」のよさや美しさを改めて感じ取ることができるようにする。 【重点1】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             心をつかむ「木星」 その理由は○○にあり！           </div>	
3. 学習の仕方を確認する。 (1)個人で考える。 ①何度も聴く。 ②付箋に気付きや自分の考えを書く。 (2)模造紙で共有する。 ①付箋を貼ったり、友達の付箋にコメントしたりする。 (3)語り合う。 (4)結論付ける。	○これまでの学習を想起し、学習の進め方を児童自身から提案できるようにする。 ○ロイロノートに「木星」と「火星」の音源を用意し、演奏箇所を選んだり、繰り返したり、比較したりしながら聴くことができるようにする。 【重点1】 ○気付いたことや自分の考えを付箋に記録し、付箋で児童同士が関わり合うことができるようにする。 ○(1)(2)まで会話せずに自分の考えを練ったり、友達の考えを見て考えたりさせる。 ○「深めたい」「語りたい」ことを友達と交流できるようにする。 【重点1】 ○(3)で交流したことを基に、木星の魅力を自分なりに解釈し、発信する準備ができるようにする。
4. 学習したことをまとめる。 (1)まとめ (2)振り返りをする。	○形づくっている要素(音色、旋律、/反復、変化)の視点から「木星」のよさについてまとめることができるようにする。 ☆ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">思</span> —発言・記述内容・行動観察
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>期待される振り返りの例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホルンは木星や周りの星をキラキラと表現する音だと考えたけれど、○○さんの話を聞いて、木星の大きなゆったりとした様子も表すことができる音色だと気付くことができました。</li> <li>・「木星」のイの部分、広い宇宙を表現していると思った。「火星」を聴いて、不安を感じる旋律が続いたり、音色が鋭い感じだったりした。木星の美しさの理由は、それがなく、安心する旋律や音色が続くということだと考えた。</li> </ul> </div>	

複式指導資料第39集（令和7年度）

## いわての複式指導実践事例集

### -----協力校（事例順）-----

葛巻町立小屋瀬小学校  
葛巻町立五日市小学校  
遠野市立鱒沢小学校  
一関市立興田小学校  
陸前高田市立横田小学校  
宮古市立川井小学校  
久慈市立平山小学校  
岩手大学教育学部附属小学校

### -----作成協力（事例順）-----

盛岡教育事務所	主任指導主事	上田 淳 悟
盛岡教育事務所（盛岡市）	指導主事	伊東 晃
中部教育事務所	主任指導主事	小笠原 恵
県南教育事務所	主任指導主事	佐藤 真
沿岸南部教育事務所	主任指導主事	千葉 邦彦
沿岸南部教育事務所（陸前高田市）	指導主事	横沢 大
宮古教育事務所	指導主事	荒木 佑介
県北教育事務所	主任指導主事	足立 佳美
岩手大学教育学部附属小学校	教諭	樫木 航平

### 《参考資料》

複式学級の特質を生かした学習指導の進め方ガイド（岩手県立総合教育センター）



[https://www1.iwate-ed.jp/09kyuu/kankou/kkenkyu/170cd/h26\\_1405\\_2.pdf](https://www1.iwate-ed.jp/09kyuu/kankou/kkenkyu/170cd/h26_1405_2.pdf)

岩手県教育委員会事務局学校教育室

トップページ > 教育・文化 > 教育 > 学校教育 > 小学校・中学校教育 > 小規模・複式指導

<https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/shouchuu/1006371.html>

